「学校を核としたまちづくり基本構想策定支援業務」
調査報告書

令和８年３月

三宅町

目次

第１章　基本構想策定の背景・目的及び位置付け　1
① 背景及び目的　2
② 構想策定に係る検討経緯　6

第２章　基本構想策定に向けた状況の整理　8
① 国／町の上位関連計画の整理　8
② 町および対象施設をとりまく状況の整理　13
③ 三宅町の現状　21

第３章　住民意識の整理分析　23
① 概要　23
② 結果　23
③ 住民意識に関する分析　26

第４章　基本構想策定に向けて　41
① 今後の論点　41
②スケジュール　43
③まとめ・今後に向けて　44

第５章　参考資料　45

第１章　基本構想策定の背景・目的及び位置付け

① 背景及び目的

（１）三宅町の概況

三宅町は奈良県のほぼ中央、磯城郡に位置し、東西約3.4km・南北約2.0km、面積4.06km²という全国でも有数のコンパクトな自治体である。令和８年現在の人口は約6,300人であり、多くの住民がまとまった生活圏の中で暮らしている。万葉集にもその名が詠まれた歴史ある地域でありながら、近年は「自分らしくハッピーにスモール（住もうる）タウン」　をビジョンに掲げた持続可能なまちづくりを積極的に進めている。

第２次三宅町総合計画では、将来像として「～万葉の花、あざさが咲き誇る～ 慈愛の風薫り、未来に光射すきらめきのまち、みやけ」を掲げ、「子どもたちの笑顔」を中核に据えた子育て・教育環境の充実を重要施策の一つとして位置付けている。

（２）公共施設等の老朽化と財政的課題

わが国では、高度経済成長期から昭和40～50年代にかけて整備された公共施設等が更新時期を一斉に迎えており、多くの自治体においてその対応が喫緊の課題となっている。特に、公立小中学校は国民教育の普及に伴い全国的に急速な整備が進められた時期が集中しており、文部科学省の調査によれば建築後25年以上を経過する施設が全体の約８割を占めるに至っている。

三宅町においても例外ではなく、平成29年（2017年）３月に策定した「三宅町公共施設等総合管理計画」では、公共施設の老朽化と将来的な更新・維持管理費用の増大が喫緊の課題として明示された。さらに令和３年（2021年）３月には「三宅町公共施設個別施設計画」を策定し、建物の現況調査・劣化診断を踏まえた施設ごとの対応方針（長寿命化・集約化・複合化・廃止等）を定めた。令和４年（2022年）３月には同計画の改訂を行い、インフラ資産の状況反映も含めた最新の管理方針として更新している。

こうした一連の計画では、町の財政規模に対して将来の公共施設更新費用が著しく増大することが試算されており、施設総量の適正化・複合化・集約化の推進が不可欠であるとされる。学校施設はその延床面積・維持管理費において基礎自治体の公共施設の大きな割合を占めるものであり、その整備の在り方を検討することは公共施設全体のマネジメントと不可分の課題である。

【三宅町公共施設等総合管理計画・個別施設計画の概要】

- 策 定 時 期：三宅町公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定、令和4年3月改訂）
  三宅町公共施設個別施設計画（令和3年3月策定）
- 基本的な方針：①計画的な維持管理・長寿命化による更新費用の平準化
  ②施設の集約化・複合化による総量適正化
  ③民間活力の活用（PFI・PPP等）の検討
- 学校施設への位置づけ：個別施設計画において三宅小学校を含む学校施設を重要施設として位置付け、中長期的な整備の基本方針を示している。

（３）三宅小学校の老朽化と建て替えの必要性

三宅町唯一の小学校である三宅小学校は、明治７年（1874年）の開校以来、地域の教育の礎として長年にわたり機能を担ってきた。現在の校舎は、昭和45年（1970年）に建設され、建築後相当の年数が経過しており、構造的な老朽化が顕著となるとともに、バリアフリー化・防災機能・ICT環境等の観点においても現代の教育ニーズに対応しきれていない状況にある。

「三宅町公共施設個別施設計画」においても、三宅小学校の施設について、現状のままでの使用継続は困難であり、改築（建て替え）を含む抜本的な対応が必要であることが明示されており、その検討を早急に進めることが求められている。

一方で、単なる老朽施設の更新にとどまるのではなく、三宅町の教育委員会及び町長部局においては、「三宅小学校の建て替えは百年に一度の大事業であり、これからの教育の方向を先読みして学校を設計すべき機会である」との認識のもと、新たな学校整備を未来の三宅町の姿を描く絶好の機会と捉えている。

（４）時代の変化に即した教育観の再設定

Society 5.0 や急速なデジタル化・グローバル化の進展に伴い、学校教育に求められる役割と機能は大きく変化している。知識の習得を中心とした従来型の教育から、主体的・対話的で深い学びを実現する探究型教育への転換が国全体で進められており、施設面においても、固定的な教室配置から学習の目的や方法に応じて柔軟に変化できる環境づくりが求められている。

三宅町では、第３期三宅町教育大綱において「子どもたちは未来からの留学生」という理念を掲げ、子ども一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育環境の実現を目指し

ている。こうした教育大綱の方針を具体的な施設・空間として体現することが、新たな三宅小学校の整備において中心的な課題となっている。

（５）組合立式下中学校の運営上の検討課題

式下中学校は、昭和23年（1948年）に川西町・三宅町の両町が合意して設立した組合立（一部事務組合立）の中学校であり、両町の児童が小学校卒業後に共に学ぶ、全国的にも稀有な形態をとっている。地域の深い歴史的つながりと相互協力のもとに運営されてきた同校だが、今後の人口動態の変化・施設の老朽化・両町の財政状況等を踏まえた学校運営の持続可能性について、長期的な観点から検討することが求められている。

三宅小学校の建て替えを契機とした学校教育・施設整備の議論においては、義務教育９年間を通じた教育の連続性・一貫性の観点から、式下中学校の今後の在り方との整合を図ることが重要であり、本基本構想においてもその視点を組み込むものとする。

（６）学校施設を核とした公共施設の複合化・集約化

「三宅町公共施設個別施設計画」では、町全体の公共施設について老朽化対策と財政的持続可能性の観点から集約化・複合化の方向性が示されている。学校施設は、地域コミュニティの拠点としての機能・放課後児童クラブなどの子育て支援機能・社会教育施設との連携など、他の公共施設との複合化・集約化の親和性が高く、文部科学省も「学校施設を核としたまちづくり」の手引き（令和4年3月）の中で積極的な推進を求めている。

こうした観点から、三宅小学校の整備に当たっては、単独の学校施設の更新として捉えるのではなく、周辺の公共施設との複合化・集約化の可能性を幅広く検討し、町全体の施設マネジメントの最適化を図ることが求められる。

（７）全国的なコミュニティスクール化の推進とその要請

平成17年（2005年）に制度化された「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」は、保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる仕組みとして全国的に普及してきた。令和３年（2021年）の「地域の中核となる学校づくりに向けて」（中央教育審議会答申）では、学校と地域の連携・協働をさらに深化させることが強く求められており、令和４年（2022年）には学校教育法等の改正によりコミュニティ・スクールの設置が国公立学校に努力義務化された。文部科学

省の調査によれば、令和５年度時点で全国の公立学校の６割超がコミュニティ・スクールを導入するまでに普及が進んでいる。

コミュニティ・スクールの理念は、単に学校運営に地域の意見を取り入れるにとどまらず、地域社会そのものが学びの場となり、学校が「地域づくりの核」として機能する関係性の構築を目指すものとされる。こうした観点から、新たな学校施設の整備においては、地域コミュニティとの日常的な連携・交流が実現できる空間配置・機能構成を検討することが、国の施策の方向性とも合致している。

三宅町においても、コミュニティ・スクールの趣旨を踏まえた学校と地域の連携強化を推進しており、三宅小学校の建て替えにあたっては、学校運営協議会や地域住民が日常的に関わることのできる施設環境の整備を検討することが必要といえる。

（８）住民参加による「学校を核としたまちづくり」の推進

面積わずか4.06km²というコンパクトな三宅町において、三宅小学校は単なる教育施設にとどまらず、地域の人々が集い、交流し、生涯を通じて関わり合うコミュニティの核としての役割を担ってきた。小学校の建て替えをきっかけに、町の未来の姿と学校の在り方を住民が一緒に考えていく「学校を核としたまちづくり」は、教育・福祉・地域振興にわたる広範なテーマを包括するものである。

三宅町ではこの認識のもと「未来の学校プロジェクト」を始動し、タウンミーティングやワークショップ、アンケート調査等を通じて幅広い住民の意見を収集・反映させながら基本構想を策定することを目指している。このプロセス自体が「自分たちのまちは自分たちでつくる」という住民主体のまちづくりの実践であり、完成した学校が地域に深く根ざしたものとなるための重要な基盤といえる。

（９）本基本構想の目的

以上の背景を踏まえ、本基本構想は次の目的のもとに策定するものです。

・三宅小学校の老朽化に対応した建て替えにあたり、未来の教育ニーズと地域の実情を踏まえた整備の基本的方向性を明確化すること。
・「三宅町公共施設等総合管理計画」及び「三宅町公共施設個別施設計画」に基づく公共施設の集約化・複合化を学校整備と連動させ、持続可能な公共施設マネジメントを実現すること。
・第３期三宅町教育大綱に掲げる教育理念を具現化する環境を構想すること。
・学校を核としたまちづくりの基本的なビジョンと方針を定め、住民・行政が共有

できる将来像を提示すること。

・コミュニティ・スクールの理念を体現し、学校と地域が日常的に連携・交流できる施設・運営の在り方を構想すること。

・住民対話・合意形成のプロセスを丁寧に進め、住民が主体的に参画するまちづくりを推進すること。

② 構想策定に係る検討経緯

本基本構想の策定に至るまでの主な検討の経緯を以下に整理する。

時　期	検　討　内　容
平成29年３月	三宅町公共施設等総合管理計画を策定。高度経済成長期以降に整備した公共施設の老朽化と将来的な更新費用の急増を課題として位置付け、施設の計画的な保全・更新・集約化・複合化の基本方針を策定。
令和元年12月	第２期三宅町教育大綱を策定。子どもたちの自律的・創造的な学びを促す教育理念を明示し、学校教育から生涯学習にわたる総合的な施策の方向性を示す。
令和３年３月	三宅町公共施設個別施設計画を策定。庁舎・学校・社会教育施設など各施設の劣化状況を調査・診断した上で施設ごとの対応方針（長寿命化・改築・集約化・廃止等）を決定。三宅小学校については施設老朽化への抜本対応の必要性を明示。
令和４年３月	三宅町公共施設等総合管理計画を改訂。個別施設計画の策定内容及びインフラ資産（道路・橋梁・上下水道等）の現況を反映した最新の計画として更新。 また、議会の第１回定例会にて、「小学校建替基金積立ての計画年数及び総額」について質疑等による議論を行う。
令和６年２月	第１回三宅町教育フォーラムを開催。後に三宅町幼児園の園長に就任する徳留宏紀さんをゲストに、被認知能力を育む教育についてディスカッション。また子どもたちの自由な学びを尊重して運営されているいくつかの学校を紹介したドキュメンタリー映画「夢みる小学校」を上映。
令和６年３月	第３期三宅町教育大綱を策定。「子どもたちは未来からの留学生」を基本理念に掲げ、探究的・協働的な学びを実現するための方向性を示す。学校施設整備における教育環境の質の向上を重要な課題として明示。

時　期	検　討　内　容
令和６年８月	第２回三宅町教育フォーラムを開催。大泉教育長の教育大綱への想いや、フィンランドで教鞭をとった徳留園長による北欧での学びを三宅町でどう生かすかを考える講演のあと、小学校建替えを念頭に『もしも三宅町に教育大綱にのっとった学校・園を創るなら』というテーマで対話型ワークショップを開催。
令和７年２月	第３回三宅町教育フォーラムを開催。「フィンランド祭り」と題して、フィンランドから来日されていた現役の3名の先生をお招きして、キャリア教育や特別支援教育の事情について、トークセッションを開催。
令和７年８月	第３回三宅町教育フォーラムを開催。教育評論家の尾木直樹さんをお招きして、第1回で上映した映画の再編集完全版である「夢みる小学校 完結編」の上映とパネルディスカッション等を実施。
令和７年度 12月	「未来の学校プロジェクト」始動。三宅小学校の建て替えを契機とした「学校を核としたまちづくり」について、タウンミーティング・アンケート・ワークショップ等を通じ住民との対話を開始。第３期教育大綱の内容周知と、今後の取り組みに対して2,000以上の地域の声を集めることを目標として設定。
令和６～８年度（予定）	「学校を核としたまちづくり基本構想」策定業務に着手。住民対話・庁内検討・専門家助言を経て、令和８年３月３１日を目途に基本構想を取りまとめる予定。

上記の経緯に示すとおり、本基本構想の策定は、「三宅町公共施設等総合管理計画」及び「三宅町公共施設個別施設計画」が示す施設整備の方向性を上位方針として尊重しつつ、「三宅町教育大綱」が掲げる教育理念を空間・機能として具現化することを目指すものである。また、各種計画の目標年次や財政見通しとの整合を図りながら、現実的かつ将来を見据えたビジョンを策定することを目指す。

第２章　基本構想策定に向けた状況の整理

① 国／町の上位関連計画の整理

本基本構想の策定に当たっては、国及び本町における関連する上位計画・方針等を十分に踏まえ、計画間の整合を図ることが求められる。以下に、基本構想策定に関連する主要な計画等を整理する。

（１）国における関連する計画等

ア　小学校学習指導要領（平成29年告示）

現行の小学校学習指導要領（平成29年3月告示）は、社会と連携した「社会に開かれた教育課程」のもと、知識・技能と思考力等をバランスよく育成して確かな学力を高めるとともに、道徳教育や体験活動、体育の充実により、未来社会を担う資質・能力と豊かな心身を育成することを基本方針としている。

具体的には、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念を学校と地域社会が共有し、多様な学習活動や交流活動に対応した柔軟で開かれた学校施設の整備を求めている。本構想において新たな学校施設を検討するに当たっても、この学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」を実現できる空間づくりが求められる。

出典：文部科学省「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示）

イ　次期学習指導要領に向けた論点整理（令和7年9月）

令和7年（2025年）9月、中央教育審議会教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領改訂に向けた「論点整理（素案）」を取りまとめた。本論点整理は、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むことを基本理念としている。

【次期学習指導要領　論点整理（素案）の3つの方向性】

◇「主体的・対話的で深い学び」の実装（Excellence）
◇多様性の包摂（Equity）
◇実現可能性の確保（Feasibility）

出典：中央教育審議会教育課程企画特別部会（令和7年9月5日）

論点整理では、各教科の標準授業時数を一定範囲で調整し、生み出された時間を児童生徒の個性や特性に応じた「裁量的な時間」に充てることを可能とする「調整授業時

数制度」の創設が提案されているほか、小学校の総合的な学習の時間に「情報の領域（仮称）」を設置する案なども示されている。新たな学校施設の計画に当たっては、こうした教育課程の柔軟化に対応できる多目的な空間設計が重要となる。

出典：文部科学省「教育課程企画特別部会論点整理（素案）」（令和7年9月）

ウ　教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）

教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）は、2040年以降の社会を見据え、主体性や創造力、課題解決力を備えた持続可能な社会の担い手を育成するとともに、地域との連携や多様な学びを促す学習環境を整備し、個人と社会のウェルビーイングの向上を図る教育を推進するものである。

【教育振興基本計画における学校施設に関する方針】

◇ 児童が日常的に学習・生活を行う教育環境の基盤としての学校施設整備
◇ 地域コミュニティの拠点及び災害時の避難所としての機能を踏まえた学校施設の整備
◇ 安全・安心で良好な教育環境の確保を基本とした学校施設整備の推進
◇ 老朽化した学校施設の計画的な改修・更新及び長寿命化対策の推進
◇ バリアフリー化、空調設備の整備、トイレの洋式化等による快適な学習環境の整備

出典：教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）

エ　公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針

文部科学省が定める施設整備基本方針（平成18年告示、令和5年4月最終改正）では、子供の健全な成長を支えるため、学校と地域が連携し、自然体験や交流活動など多様な体験活動の機会を充実させるとともに、豊かな感性や創造性、社会性を育む教育環境の整備を推進することとしている。

具体的には、防災性・耐震性の確保、多様化する教育活動に対応できる柔軟な学習空間の整備、ICT環境の充実、地域コミュニティの拠点としての学校施設機能の整備、社会教育施設や福祉施設等との複合化・共用化など、多面的な学校施設のあり方が求められている。

出典：文部科学省「施設整備基本方針」（令和5年4月最終改正）

（２）町における関連する計画等

ア　三宅町総合計画（2018年4月～2028年3月）

三宅町総合計画は、町のまちづくりの最上位計画として、10年後のあるべきすがたを「～万葉の花、あざさが咲き誇る～ 慈愛の風薫り、未来に光射すきらめきのまち、みやけ」と定めている。教育分野においては、学力・生きる力の育成に向けた学校教育の充実、幼児園・小中学校の連携強化、特別支援教育の充実、家庭・地域と連携した学校支援体制の構築等を重要施策として位置付けている。

【三宅町総合計画　基本理念】

◇ つながり、支え合い、安心できるまちをめざす
◇ 出会い、高め合い、豊かな交流のあるまちをめざす
◇ 郷土愛を育み、未来への希望を創造するまちをめざす

出典：三宅町総合計画（2018年4月策定）

イ　第3期三宅町教育大綱（令和6年4月）

第3期三宅町教育大綱は「子どもたちは未来からの留学生」という理念を掲げ、子ども一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育環境の実現を目指している。子どもたちが将来にわたり地域社会の担い手として主体的に生きる力を育む教育を推進するとともに、安全で安心して学ぶことができる教育環境の整備、地域コミュニティの拠点としての学校施設機能の充実を方針として掲げている。

【第3期三宅町教育大綱の主な方針】

◇ 子どもたちが将来にわたり地域社会の担い手として主体的に生きる力を育む教育の推進
◇ 確かな学力の育成、豊かな心と健やかな体の育成を目指した教育の充実
◇ 安全で安心して学ぶことができる教育環境の整備
◇ 地域全体で子どもたちの成長を支える教育環境づくり
◇ 地域コミュニティの拠点としての学校施設機能の充実

出典：第3期三宅町教育大綱（令和6年4月策定）

ウ　第2期三宅町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年4月改訂）

第2期総合戦略は「みんなが好きなまち三宅町を多様な「つながり」と、みんなの「やりたい」で育む」を大きな目標に掲げ、教育分野では、1町1園1校の特性を活かした幼小一貫子育て方針の検討、ICTを活用した子育て支援の充実等を施策として位置付けている。

エ　三宅町人口ビジョン（令和3年3月改訂）

三宅町人口ビジョンでは、合計特殊出生率の向上と若年層の流出抑制を図ることにより人口減少の緩和を目指し、2060年に総人口約4,500人規模の維持を展望している。小学生人口は2039年に約164人（2019年の約55%）、2064年には約74人（同約25%）まで減少すると推計されており、児童生徒数の大幅な減少が学校教育環境に与える影響への対応が求められている。

出典：三宅町人口ビジョン（令和3年3月改訂）

オ　三宅町都市計画マスタープラン（平成29年9月）

都市計画マスタープランでは、町域を「東部地区」「中央地区」「西部地区」の3つの地域に区分し、中央地区に小中学校、役場、文化ホール、福祉施設等の公共施設が集積する拠点として位置付けている。三宅小学校は広域避難場所として、災害時における活動拠点としての役割も担っており、耐震性貯水槽や備蓄倉庫等の災害応急対策施設の整備が求められている。

出典：三宅町都市計画マスタープラン（平成29年9月改訂）

カ　三宅町公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂）

三宅町公共施設等総合管理計画は、町が所有する全ての公共施設について、長期的な視点に立った更新・統廃合・長寿命化等の計画的な実施を定めたものである。今後35年間の更新投資額は約461億円と試算されており、財政負担軽減のため、公共施設の保有量の適正化、長寿命化の推進、維持管理費の縮減、効率的な利活用が基本方針として掲げられている。

【三宅町公共施設等総合管理計画　基本方針】

◇ 将来の人口減少や財政事情等を踏まえ公共建築物の保有量を維持・抑制
◇ 安全性を確保しつつ長寿命化し、既存施設を効率的に活用
◇ 維持管理の適正化と予防保全により既存施設を効果的に活用
◇ 地域コミュニティの維持やまちづくりの観点から施設を有効活用

出典：三宅町公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂）

小学校については、「計画的な修繕や改修を行い、施設の長寿命化を図る」とともに、「校舎の多くは昭和56年（1981年）以前の建築物であるため、施設の状況に応じて改築または大規模改修等の実施を検討」することが方針として明記されている。

キ　三宅町公共施設個別施設計画（令和3年3月）

公共施設個別施設計画は、各施設の劣化状況に応じて予防保全と事後保全を組み合わせた適切な維持管理を行うことを基本としている。学校施設については、「安全性」「快適性」「学習活動への適応性」「環境への適応性」「地域の拠点化」の観点から、基礎的・基本的な学力の定着と個性を伸ばす教育環境の整備（学習空間の充実）、安全とうるおいをもたらす施設環境の実現（生活空間の充実）、地域活動・コミュニティや防災の拠点としての施設整備（地域との連携の充実）を目指すこととしている。

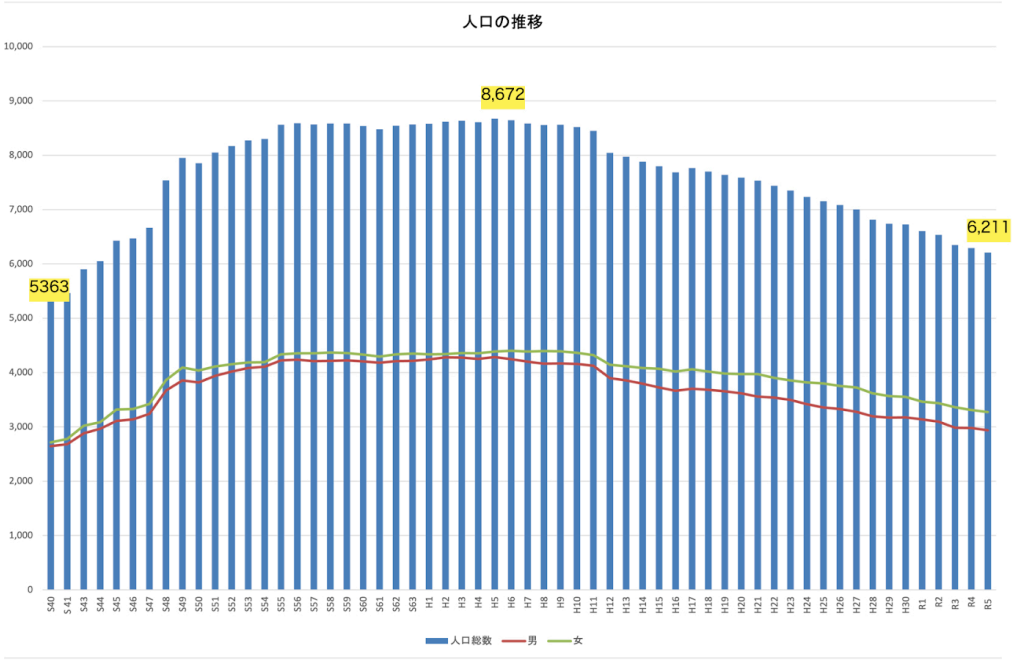
出典：三宅町公共施設個別施設計画（令和3年3月策定）

② 町および対象施設をとりまく状況の整理

（1）総人口

昭和には第二次ベビーブームや団地開発によって人口が急増し、平成5年には8,672人まで人口が増加している。その後のバブル崩壊後、人口減少が徐々に加速をはじめ、少子高齢化と生産年齢人口の減少が大きな課題となりつつある。三宅町人口ビジョンに基づく将来推計では、2039年には4,768人（2019年の約70%）、2064年には2,521人（同約37%）まで減少するものと見込まれている。一方、人口ビジョンに掲げる目標値では、各種施策の効果により2060年に総人口約4,500人規模の維持が掲げられている。

図表2-1　三宅町の総人口の推移と将来推計



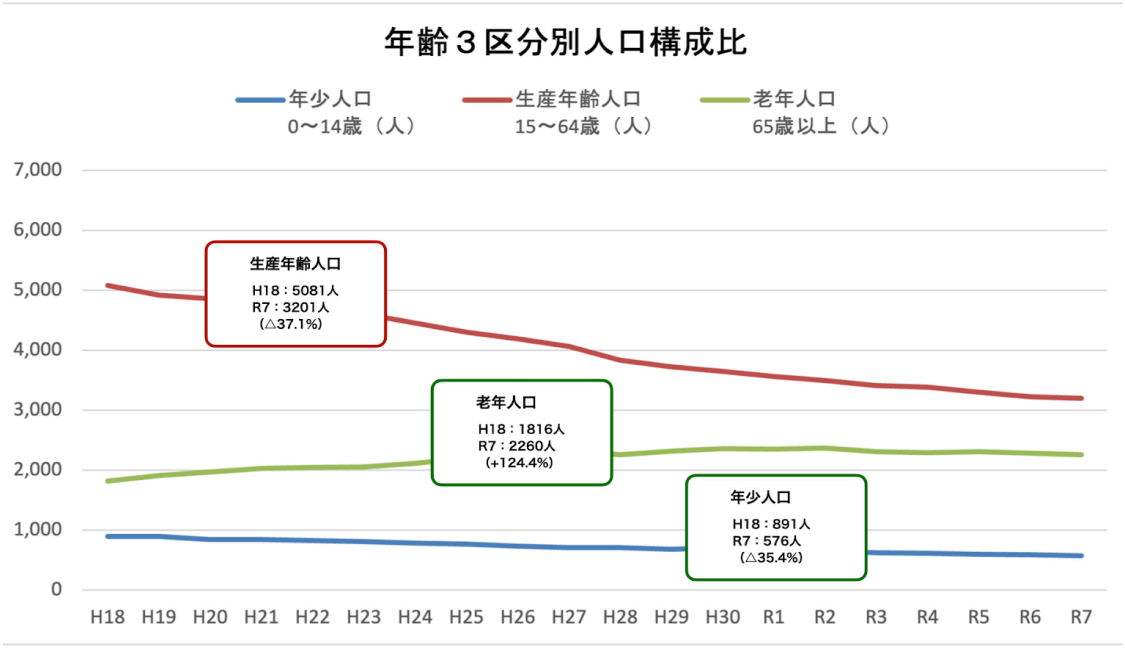
出典：奈良県「長期時系列統計データ」をもとに作成

（2）年齢別人口

三宅町の人口構成をみると、少子高齢化が顕著に進行している。令和７年度（2025年）時点の年齢3区分別人口は、年少人口（0～14歳）576人、生産年齢人口（15～64歳）3,201人、老年人口（65歳以上）2,260人であり、高齢化率は約37.4%に達している。

持続可能な地域社会総合研究所が提供する「人口予測シミュレーション」を活用して、将来人口の推計を行うと、2065年には年少人口が144人（2025年の約25%）、生産年齢人口1,228人（同約38.3%）となり、地域社会の担い手が大幅に減少することが見込まれる。人口構成の高齢化がさらに進行し、地域社会の活力維持が大きな課題となる。

図表2-2　年齢3区分別人口の推移と将来推計

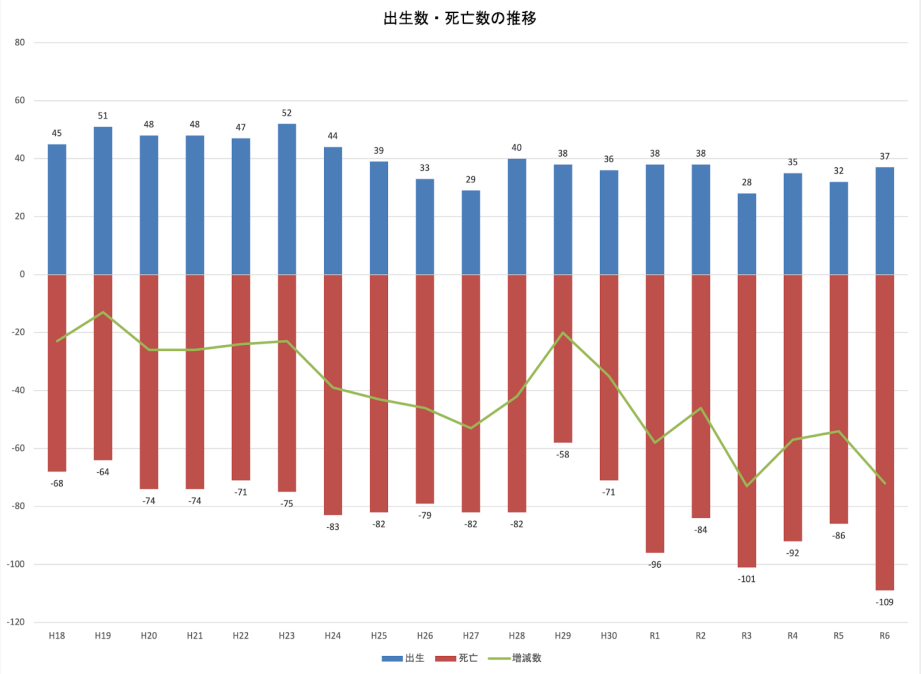


出典：住民基本台帳、年齢別推計人口調査（奈良県）、三宅町人口ビジョン（令和3年3月改訂）をもとに作成

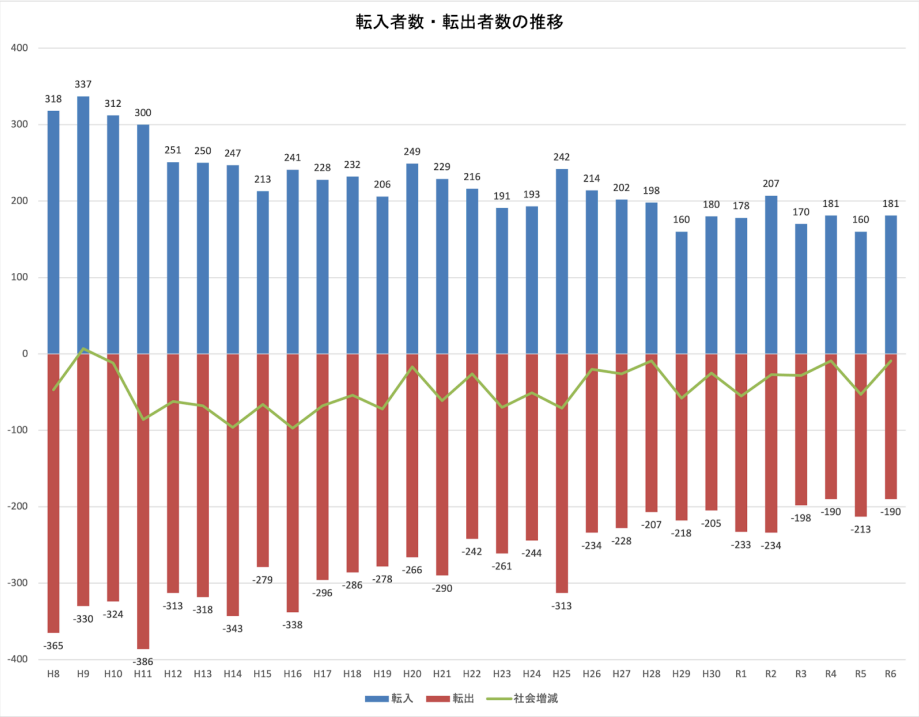
（3）人口動態

三宅町では、出生数の減少と死亡数の増加により、平成11年以降は自然減の状態が継続している。加えて、転入者より転出者が多い社会減もみられ、自然的要因と社会的要因の両方が人口減少の原因となっている。特に若年層や子育て世代の町外への流出が課題となっており、これが年少人口のさらなる減少や将来的な人口規模の縮小につながっている。

人口減少を抑制するためには、子育て支援や定住促進、雇用の確保などの施策を総合的に進め、若い世代の定住・移住を促進していくことが不可欠である。本構想における学校施設の整備は、子育て世代にとっての定住の魅力を高める施策としても重要な位置を占めるものである。



出典：年齢別推計人口調査（奈良県）をもとに作成



出典：人口動態調査、住民基本台帳人口移動報告をもとに作成

（4）関連する施設の状況

三宅町における教育・子育て関連施設の現況を以下に整理する。三宅町は1町1園1校の体制であり、三宅幼児園（認定こども園）、三宅小学校、及び川西町との組合立である式下中学校が教育施設の中核をなしている。

施設名称	所在地	築年月	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
三宅小学校	伴堂766	昭和45年3月	18,361	7,266
三宅幼児園 （幼稚園棟）	伴堂703-1	昭和52年3月	3,013	1,012
三宅幼児園 （保育所棟）	伴堂707-1	昭和49年10月	3,767	1,355
式下中学校 ※組合立	川西町結崎	昭和44年	不明	6,600

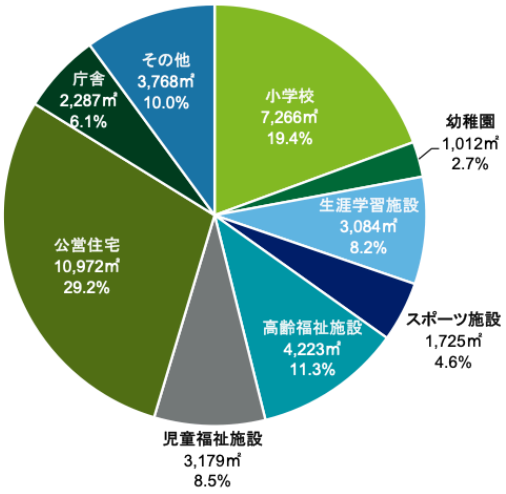
出典：三宅町公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂）

三宅小学校は昭和45年（1970年）3月の建築であり、令和7年（2025年）現在で築55年が経過している。校舎の97.6%が築40年以上を経過しており、老朽化が極めて深刻な状況にある。敷地面積18,361㎡、延床面積7,266㎡は、町の公共施設総面積の19.4%を占める主要施設である。

三宅幼児園は、平成28年度に三宅幼稚園と伴堂保育所を統合し、幼保連携型認定こども園として運営されている。幼稚園棟（昭和52年築）、保育所棟（昭和49年築）ともに築50年前後が経過しており、老朽化への対応が課題となっている。

式下中学校は、昭和23年（1948年）に川西町・三宅町の両町が合意して設立した組合立（一部事務組合立）の中学校であり、両町の児童が小学校卒業後に共に学ぶ、全国的にも稀有な形態をとっている。義務教育9年間を通じた教育の連続性・一貫性の観点から、本構想においてもその位置付けを視野に入れる必要がある。

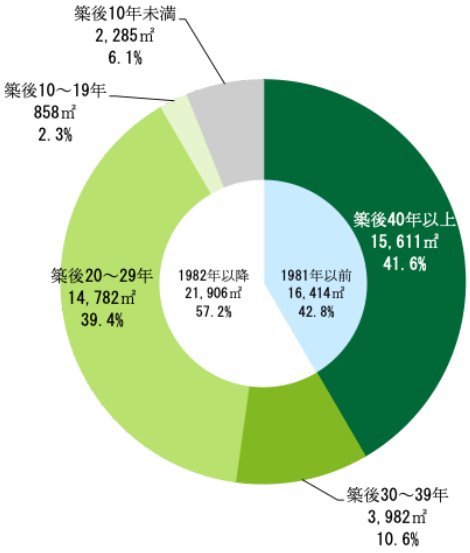
図表2-4　公共施設の施設分類別面積割合



出典：三宅町公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂）より抜粋

三宅町の公共建築物の総延床面積は約37,517㎡であり、このうち旧耐震基準（昭和56年以前）の建物が全体の41.6%を占めている。築30年以上経過した建物は令和3年度末時点で全体の52.2%に達しており、施設の老朽化対策は町政の喫緊の課題である。

図表2-5　公共施設の築年数別構成比



出典：三宅町公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂）より抜粋

なお、町では令和3年度（2021年度）に、公民館機能、図書機能、学童保育、子育て支援等の機能を集約した複合施設「三宅町交流まちづくりセンターMiiMo」を整備しており、公共施設の複合化・集約化の先行事例として位置付けられる。

2026年現在の三宅小学校の児童数は227名である。また、式下中学校の児童数は328名で、うち143名が三宅町の児童である。2030年以降の児童数は、今後の出生数等によって変動することが予想されるが、少子化・晩婚化にともなって児童数は全体的に減少していくことを想定する必要がある。

三宅小学校児童数の推移（就学予定者数をもとに推計）

	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
1年生	50	41	38	35	37	31	36	35	34	35
2年生	36	50	41	38	35	37	31	37	35	34
3年生	33	36	50	41	38	35	37	31	37	35
4年生	30	33	36	50	41	38	35	37	31	37
5年生	42	30	33	36	50	41	38	35	37	31
6年生	47	42	29	33	36	50	41	38	35	37
計	238	232	227	233	237	232	218	213	209	209

…直近3か年の平均

…就学システム推計

式下中学校児童数の推移（就学予定者数をもとに推計）

年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
1年生	115	106	107	92	98	110	105
2年生	109	115	106	107	92	98	110
3年生	117	109	115	106	107	92	98
計	341	330	328	305	297	300	313

③ 三宅町の現状

（1）町の現状

三宅町は奈良県の中央部、奈良盆地のほぼ中央に位置し、東西約3.4km、南北約2.0km、面積約4.06㎢と県内で最も小さな町であり、全国でも有数のコンパクトな自治体である。令和7年（2025年）現在の人口は約6,400人であり、平成12年（2000年）の約7,900人から25年間で約19%減少している。今後も人口減少は継続し、趨勢推計では2064年に2,521人（現在の約39%）まで減少する見込みである。

少子高齢化が急速に進行しており、年少人口の減少と高齢化率の上昇が顕著である。特に小学生人口は2039年に現在の約55%、2064年には約25%まで減少すると推計されており、学校教育の持続的な運営に大きな影響を及ぼすことが見込まれる。一方、若年層の流出抑制と子育て環境の充実を通じた人口減少緩和に向けた施策が進められており、「スモール（住もうる）タウン」として持続可能なまちづくりを積極的に推進している。

（2）公共施設の現状

三宅町の公共建築物の総延床面積は約37,517㎡であり、旧耐震基準（昭和56年以前）の建物が全体の41.6%、築30年以上の建物が52.2%を占めている。今後35年間の更新投資額は約461億円と試算されており、町の財政規模に対して著しく大きな負担となることが見込まれている。

「三宅町公共施設等総合管理計画」では、施設総量の適正化、長寿命化の推進、複合化・集約化による効率的な施設運営を基本方針としている。令和3年度に整備された「三宅町交流まちづくりセンターMiiMo」は、公民館・図書・学童保育・子育て支援等の機能を集約した複合施設の先行モデルであり、今後の施設再編においてもこうした方向性が参照される。

（3）対象施設の現状

本構想の主たる対象施設である三宅小学校は、昭和45年（1970年）の建築から55年以上が経過し、校舎の97.6%が築40年以上という深刻な老朽化状態にある。敷地面積18,361㎡、延床面積7,266㎡は町の公共施設の約2割を占めており、その整備は公共施設マネジメント全体に大きな影響を与える。構造的な老朽化に加え、バリアフリー化、防災機能、ICT環境等においても現代の教育ニーズに十分対応できていない状況にある。

三宅幼児園（認定こども園）についても、幼稚園棟・保育所棟ともに築50年前後が経過しており、老朽化への対応が課題である。また、以前は児童館（上但馬団地児童館

等）が子どもの居場所として機能していたが、耐震性の不足等により閉鎖・休館となっているものもあり、子どもの居場所に関する環境整備も求められている。

式下中学校は川西町・三宅町の組合立であり、その運営形態は全国的にも稀有なものである。今後の人口動態や両町の財政状況を踏まえた学校運営の持続可能性について、長期的な視点からの検討が必要である。三宅小学校の建て替えに当たっては、義務教育9年間の連続性・一貫性の観点から、式下中学校の今後のあり方との整合を図ることが重要な論点となる。

【第2章のまとめ：基本構想策定に向けた主要な論点】

◇ 国の教育施策は「主体的・対話的で深い学び」の実現と柔軟な学習空間の整備を志向しており、次期学習指導要領ではさらなる教育課程の柔軟化が見込まれる

◇ 三宅町の人口は今後も継続的に減少し、特に児童生徒数の大幅な減少が見込まれることから、将来の学校規模を見据えた施設計画が不可欠である

◇ 第3期教育大綱が掲げる「子どもたちは未来からの留学生」の理念を具現化する施設・空間の構想が求められる

◇ 公共施設の老朽化と更新費用の増大に対応するため、学校施設を核とした複合化・集約化の検討が重要である

◇ 三宅小学校の築55年超の深刻な老朽化に対し、単なる更新にとどまらない「学校を核としたまちづくり」の視点での整備が求められる

◇ 式下中学校との義務教育の連続性、三宅幼児園との幼小連携、MiiMoとの機能連携など、町内施設間の有機的な連携を視野に入れた構想が必要である

第３章　住民意識の整理分析

① 概要

本章では、三宅町が「学校を核としたまちづくり基本構想」の策定に向けて実施した住民意識調査の結果を整理・分析する。三宅町では、第３期教育大綱の理念「子どもたちは未来からの留学生」のもと、三宅小学校の建て替えを契機とした「未来の学校プロジェクト」を令和６年度に始動させた。本プロジェクトでは、タウンミーティング・ワークショップ・出張説明会・自治会対話会・新成人アンケート等の多様な手法を通じて、幅広い世代の住民の意見・要望・懸念を収集し、基本構想の策定に反映するための基礎資料を整備した。

住民意識調査は大きく「町内での出張説明会・タウンミーティングの実施」と「未来の学校・まちを描く連続ワークショップの実施」の二つの柱で構成されており、調査期間は2024年12月から2026年3月にわたる。総回答者数は433名であり、年代・地域・立場の異なる多様な住民の声を収集している。

【住民意識調査の概要】

- 調査期間：2024年12月～2026年3月
- 総回答者数：433名
- 調査手法：対話会・ワークショップ参加者アンケートと成果物の定量・定性分析
- 調査の柱：
  - （１）町内での出張説明会・タウンミーティング（8回の自治会対話会＋3回の出張説明会）
  - （２）未来の学校・まちを描く連続ワークショップ（全3種のワークショップ計18回開催）

② 結果

（１）町内での出張対話会・タウンミーティングの実施

三宅町の第３期教育大綱の内容や未来の学校プロジェクトの取り組みを広く周知するとともに、各自治会や地域団体の方々との対話をとおして、「学校を核としたまちづくり」への考えや不安等の可視化を行うことを目的として、出張対話会・タウンミーティングを実施した。対象者は三宅町の各自治会または三宅町の学校教育・青少年育成

に関心をもつ地域住民・団体等であり、8回の自治会向け出張対話会と3回の出張説明会の計11回を実施した。

実施日	時間	対象・会場	参加者数
12月7日（日）	9時〜12時	三宅町生き生き交流祭	32名
12月17〜19日	12時~13時	教育長室カフェ	25名
1月12日（月）	10時〜12時	成人式	30名
1月26日（月）	19時〜20時30分	三河地区	11名
2月11日（水）	13時	伴堂地区	75名
2月16日（月）	17時〜18時30分	ひまわりの家	20名
2月16日（月）	19時〜20時30分	但馬地区	15名
2月23日（月）	10時〜12時	伴堂1丁目・2丁目	25名
2月25日（水）	19時〜20時30分	石見地区	9名
2月26日（木）	19時〜20時30分	東屏風地区	5名
3月2日（月）	19時〜20時30分	上但馬地区	15名
3月3日（火）	19時〜20時30分	小柳地区	12名
3月9日（月）	19時〜20時30分	屏風地区	13名

（2）未来の学校・まちを描く連続ワークショップの実施

複数回の対話・創作ワークショップを通じて、地域住民や学校関係者が未来の学校・まちづくりへの理解と想像を深めるとともに、まちの未来像を具体的に描き、構想実現に向けた機運を高めることを目的として連続ワークショップを実施した。対象者は三宅町の学校教育・青少年育成に関わる個人や団体、学校を核としたまちづくりに積極的な関心をもつ地域住民であり、前半10回・後半7回の計17回のワークショップを通じて、多様な参加者によるまちの未来像の想像と描写を行った。

1時間目「学校・まちの未来を想像する」

実施日	時間	対象	参加者数
12月2日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	6名
12月9日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	22名
12月16日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	12名
12月23日（火）	14時〜15時30分	三宅町議会	9名
12月23日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	7名

1月6日（火）	9時〜12時30分	三宅小学校・式下中学校	26名
1月6日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	5名
1月13日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	7名
1月17日（土）	10時〜12時	保護者向け	16名

２時間目「実現したい学校・まちを描く」

実施日	時間	対象	参加者数
1月20日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	5名
1月27日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	11名
2月3日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	5名
2月10日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	11名
2月15日（日）	10時〜12時	保護者向け	30名
2月17日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	4名
2月24日（火）	19時〜20時30分	全住民向け	12名

３時間目（第５回教育フォーラム）「三宅で実現したい未来像を分かち合う」

実施日	時間	対象	参加者数
3月29日（日）	14時〜17時30分	全住民向け	66名

（3）各調査の回答者概要

上記のタウンミーティングとワークショップで実施した全アンケート回答と成果物の内容を総合的に調査し、「学校を核としたまちづくり」の未来に対する住民の意向と、潜在的なニーズの分析を行った。結果・基本情報は以下のとおりである。

対象	有効回答	主な対象層
新成人アンケート	30件	20歳（新成人）
その他 出張アンケート	76件	地域住民（7割以上が50代以上）
自治会対話会	105件	各自治会の住民（7割以上が60代以上）
第1回WS	108件	積極的な関心をもつ10〜80代の幅広い世代
第2回WS	62件	積極的な関心をもつ10〜80代の幅広い世代
第3回WS	52件	積極的な関心をもつ10〜80代の幅広い世代
合計	433件	—

③ 住民意識に関する分析

（1）教育大綱への理解・共感度

対話会やワークショップをとおして、多くの参加者が取り組みへの関心・理解・共感を示していることが確認された。関心度や共感度に比べて理解度がやや低いことから、より具体的な事例や取り組みをとおしたわかりやすい情報発信が求められると推察される。また、役場全体での情報共有や、批判的な声を聞き取っていくことの重要性が指摘されており、その点は今後の課題であるといえる。

対象	関心度（5段階）	理解度（5段階）	共感度（5段階）
新成人	3.20	3.77	3.71
住民（出張イベント）	4.22	3.70	3.91
自治会	3.86	3.62	3.72
第1回WS	― ※1	3.96 ※2	特に高い ※1
第2回WS	― ※1	3.98 ※2	特に高い ※1
第3回WS	3.88	4.04	4.02
加重平均（4調査・263名）	3.89	3.71	3.83

【注記】

※1　第一回・第二回WSアンケートはテーマ選択・自由記述中心の設計であり、関心度・共感度の単一スコアは算出対象外。ただし、自由記述の内容分析および参加者のコメント傾向から、WS参加者は関心度・共感度がいずれも他調査より高い傾向が確認された。

※2　第一回・第二回WSアンケートの理解度は、「Q1. 未来の学校やまちの課題・可能性について理解は深まりましたか？」（5段階評価）の全回答平均値。加重平均行は設問内容が共通の3調査のみで算出。なお、第一回WSには「Q3. 三宅町の教育大綱の方向性について、理解は深まりましたか」の設問も設けられており、その平均は4.06である。

分析・考察

・理解度：関心度（平均3.89）に比べ、理解度（3.71）がやや低い。プロジェクトへの関心・期待は高いものの、具体的な内容や計画の周知・浸透に課題がある。よりわかりやすい情報発信と説明機会の拡充が求められている。
・共感度：加重平均3.83と、理念・方針への共感は概ね得られている。一方「共感はできるが実践は難しそう」という理想と現実のギャップへの懸念が複数見られた。
・WS参加者は理解度・共感度ともに高く、継続参加者ほど理解が深まる傾向がある。第1回WS（3.96）・第二回WS（3.98）ともに理解度スコアが他調査の加重平均（3.71）を大きく上回っており、ワークショップ形式が理解促進に有効であることが示された。
・第1回WSでは「教育大綱の方向性への理解（Q3）」が平均4.06と最高水準を記録。対話型の手法が住民の理解を深める上で特に効果的であることが確認される。

（2）住民が重視するテーマ

全433名の回答者に対し、「学校を核としたまちづくり」に関連する10テーマから重視するものを選択する設問を設けた結果、「学校と地域のつながり」が選択率67.9%で圧倒的第1位となった。地域全体で未来の学校づくりを考えるうえで、「学校や子どものため」という観点だけでなく「地域のため」を踏まえた議論を行うことが重要であることを示唆している。また、全10テーマにおいて概ね22%〜68%の幅広い関心が見られ、住民が教育に多面的な期待を持っていることがわかる。

順位	テーマ	選択数	選択率
1位	学校と地域のつながり	294件	67.9%
2位	こどもの個性の尊重	203件	46.9%
3位	未来の授業のあり方	181件	41.8%
4位	こどもの安心安全	174件	40.2%
5位	未来に向けて育むべき能力	167件	36.7%
6位	未来の校舎のあり方	159件	36.7%
7位	大人にとっての学び	122件	28.2%
8位	少子高齢化への対応	112件	25.9%
9位	三宅らしい教育観・教育法	110件	25.4%
10位	地域の歴史・文化の継承	97件	22.4%

世代別テーマ特性

6調査（成人式・出張イベント・自治会対話会・第1回WS・第2回WS・第3回WS）の年代情報（428名）に基づくクロス集計に基づく世代別分析を行った。世代グループは「若年層：10〜30代（119名）」「中年層：40〜50代（151名）」「高齢層：60代以上（158名）」の3区分とし、各テーマの選択率は「回答者数÷グループ人数×100」で算出した。

高齢層の関心テーマ（60代以上／158名）

60代以上は「少子高齢化への対応」への関心が圧倒的に高く（全体平均25.9%から+15.9pp）、地域・安全・文化継承という「地域共同体の持続」に関わるテーマに独自の強みを示している。「未来の校舎のあり方」への選択率も全年層最高値であり、建物の老朽化・環境改善への切実な意識がうかがえる。

テーマ	選択率	全体比	評価
少子高齢化への対応	41.8%	+15.9pp	特に強い関心
学校と地域のつながり	68.8%	+0.9pp	全世代共通（全世代1位）
こどもの安心安全	48.6%	+8.4pp	顕著な関心（全年層最高値）
未来の校舎のあり方	44.2%	+7.5pp	顕著な関心（全年層最高値）
地域の歴史・文化の継承	31.2%	+8.8pp	顕著な関心（全年層最高値）
三宅らしい教育観・教育法	32.6%	+7.2pp	顕著な関心（全年層最高値）

中年層の関心テーマ（40〜50代／151名）

中年層の最大の特徴は「学校と地域のつながり」への突出した関心（77.0%・全年層最高値）と、「大人にとっての学び」の顕著な高さ（42.9%・全体平均28.2%から+14.7pp）にある。子育て当事者世代として、自分自身も学び続けたいというニーズが明確に表れている。一方、「こどもの個性の尊重」は全体平均（46.9%）を5.9pp下回っており、他世代に比べて個性重視より「地域とのつながり」や「大人の学び」を優先する傾向が見られる。

テーマ	選択率	全体比	評価
学校と地域のつながり	77.0%	+9.1pp	特に強い関心（全年層最高値）
大人にとっての学び	42.9%	+13.5pp	特に強い関心（全年層最高値）
こどもの安心安全	41.3%	+1.1pp	全世代平均並み
未来の校舎のあり方	40.5%	+3.8pp	全世代平均を上回る

若年層の関心テーマ（10〜30代／119名）

若年層は「こどもの個性の尊重（50.0%）」と「未来の授業のあり方（48.2%）」が全年層最高値水準に並んでおり、子ども中心・授業改革への関心の高さが特徴的である。一方で「少子高齢化（19.6%）」「三宅らしい教育観（17.0%）」への選択率は全年層最低値であり、地域課題・伝統的価値観よりも「個人の学び」や「授業の質」に関心が向く傾向がある。

テーマ	選択率	全体比	評価
こどもの個性の尊重	50.0%	+3.1pp	全年層最高値
未来の授業のあり方	48.2%	+6.4pp	顕著な関心（全年層最高値タイ）
こどもの安心安全	44.6%	+4.4pp	全世代共通
少子高齢化への対応	19.6%	-6.3pp	最低関心（全年層最低値）
三宅らしい教育観・教育法	17.0%	-8.4pp	全年層最低値

全世代共通の関心テーマ

以下のテーマは3世代すべてで40%超の高い選択率を記録しており、年代を問わず住民に広く共有されている関心事項である。

- 学校と地域のつながり（若53.6% ／ 中77.0% ／ 高68.8%）　※全年代1位
- こどもの個性の尊重（若50.0% ／ 中41.3% ／ 高48.6%）
- 未来の授業のあり方（若48.2% ／ 中42.1% ／ 高47.8%）

（3）未来の学校・まちへの期待

全433名の自由記述回答をもとに「将来の学校・まちへの期待や希望を含む記述」を抽出した。抽出された記述（延べ約280件）をKJ法的なクラスタリングで類似テーマごとにグループ化し、主要な期待を集約した。言及数・対応するテーマ選択率を照合し、複数調査に共通して現れるものを重要度の指標とした。

期待１　学校を地域コミュニティの核に

「閉じた門」ではなく、地域全体の学びの拠点へ。学校が核となったまちづくり・サテライト学校の構想に対する支持が多く寄せられた。学校の敷地と地域社会の境界をなくし、誰もが自然に行き来できる開かれた場を目指す声が広く見られる。

期待２　多世代が自然に交わる場

高齢者と子どもが一緒に過ごし、世代間の知恵を交換できる空間を求める声が多い。強制でなく「気づいたら交流していた」という自然な設計が理想とされ、少子化で空く教室を世代間交流スペースとして活用する発想も見られた。

期待３　個性と主体性を尊重した学び

画一的でない、自分のペースで学べる柔軟な環境への期待が強い。子どもを「教育の対象」ではなく「共創パートナー」として捉え、子ども自身が学びの場をデザインする仕組みを求める声がある。

期待４　ICT・AI活用の最先端学習環境

デジタルネイティブ世代が力を発揮できる環境整備を求める声がある。特に新成人からは強い要望があり、AI・ICTを積極的に取り入れた時代に合った教育環境が求められている。

期待５　大人も学べる生涯学習拠点

子どもだけでなく大人も学び続けられる開かれた学校を求める声が多い。「大人の背中を見て子どもが育つ」という循環を生み出す場として、学校を地域全体の学びの拠点として機能させることへの期待がある。

期待６　安全・安心で快適な施設環境

防災・避難機能を持ちながら、空調完備など快適で清潔な学習・生活空間の整備を求める声がある。施設の物理的な快適さが学びの質にも直結するという認識が広がっている。

（4）課題意識

全自由記述から「困りごと・懸念・疑問・不安・改善提案」を含む記述を抽出（延べ約203件）し、同一テーマに関する記述を束ね、言及件数の多い順に課題を整理した。言及件数が少なくとも複数調査にまたがって現れたものは「構造的課題」と判断してリストに含めた。

課題１　理念と実践のギャップ

理念・方針への共感は高いが、「具体的にどう実現するか」「誰が実行するのか」という疑問が多数寄せられている。抽象的なビジョンだけでなく、具体的な実施計画・工程表・成功事例の提示が急務である。

課題２　教員の負担と人材確保

新しい取り組みが教員の負担増大につながりかねないという懸念が示されている。「現場が疲弊している状態で新しいことを始めても続かない」という現実的な指摘があり、教員が主体的に楽しめる環境づくりと、外部人材・サポート体制の整備が必要とされている。

課題３　財源と体制の持続可能性

良いものを多く取り入れようとすると費用が際限なく膨らむという懸念がある。また、建て替え後60〜70年先の次世代も見据えた長期的・持続可能な財源確保と運営体制の設計が求められている。

課題４　基礎学力と新しい学びの両立

個性尊重・非認知能力育成と、基礎学力の保障をどう両立させるかについて説明が不十分だという声がある。新しい教育観が「学力軽視」に見える懸念に対する明確なメッセージが必要である。

課題５　住民参加・保護者の巻き込み

最も当事者であるべき保護者世代の参加が少ないことが指摘されている。平日夜の開催や専門的な言葉遣いがハードルになっているとの声があり、子ども発信で保護者を引き込む工夫や、参加しやすい形式への改善が求められている。

課題６　安全と開放性のジレンマ

「開かれた学校」と「子どもの安全確保」の両立は構造的な課題である。「門を開く」ことへの不安と、「地域に開く」ことへの期待が同時に存在しており、安全管理の仕組みを整備した上での開放性を実現する設計が必要とされている。

課題７　少子高齢化と学校規模の問題

少子化が進む中での適切な学校規模、施設の有効活用、そして中学校も含めた一体的な検討を求める声がある。小学校だけでなく三宅町全体の教育体制の見直しとして議論すべきという指摘が見られる。

課題８　世代間の距離感と関わり方

高齢者と子どもの間に心理的距離があり、「共感はしたいが具体的な関わり方がわからない」という戸惑いが存在する。一方通行でなく、相互に学び合える世代間交流のガイドラインや機会づくりが必要とされている。

課題９　ハード（校舎建替）とソフト（教育方針）の議論整理

「教育の理想を語る場」と「校舎建て替えの設計を決める場」が混在しているという指摘がある。住民が混乱しないよう、議論の目的・段階・決定プロセスを明確に可視化することが信頼醸成につながる。

（5）三宅町が有する資源・可能性

課題意識の分析と並行して、自由記述の中から「強みの指摘・前向きな可能性・潜在的リソースへの言及」を含む記述を別途抽出（延べ約160件）し、参加者属性データとクロス分析することで、「誰がどのような可能性を見出しているか」を把握した。また、テーマ選択の組み合わせパターン分析により、単独テーマでは見えない「潜在的ニーズの束」を可視化した。

可能性１　「しなやかさ」という独自の強み

小さな町だからこそできる柔軟な発想と、地域全体での子育てを強みとして指摘する声がある。「三宅らしい教育観・教育法」への関心（26.5%）は、画一的でない独自の教育を追求する意欲の表れであり、プロジェクトメンバーが指摘するとおり、三宅町の強みは「しなやかさ」──柔軟さと芯の強さを兼ね備えた行政と住民の姿勢にあり、全国に先駆けた教育改革の土台となり得る。

可能性２　高齢者の「貢献したい」という能動的意欲

総参加者の74%を占める60代以上の高齢者は、単なる受益者や保護される対象ではなく、自らの経験・技術・知恵を次世代に伝えたいという強い能動的意欲を持っている。この「地域の先輩力」を未来の学校づくりに活かすことが、学校と地域を結ぶ最大のリソースとなる。

可能性３　町外参加者が示す広域コミュニティの可能性

第一回WSでは参加者の52%、出張イベントでも29%が町外から参加した。三宅町の取り組みに共鳴する人材が広域に存在しており、外部の専門知識・ネットワーク・多様な視点を取り込んだ開かれた学校づくりの可能性を示している。

可能性４　子ども中心への視点の転換

複数の参加者が子どもを「教育の対象」から「学校づくりの主役」であり「共創パートナー」として捉える重要性を指摘している。ワークショップで見せた子どもたちの発想力・優しさ・柔軟性は大人を驚かせており、「子どもを真ん中に置いて子どもを軸に話を進める」アプローチこそが、未来の学校を体現し、保護者参加を促す鍵にもなる。

可能性５　対話プロセス自体が地域活性化の触媒

アンケート結果をみると、ワークショップへの参加体験が住民の意識変革を生んでいる。プロジェクト自体がまちづくりの触媒として機能しており、継続的な対話の場を設けることが三宅町の「社会関係資本」を豊かにする最大のチャンスといえる。

可能性６　「街まるごと学校」サテライト学校構想

「街が学校になる」「校舎の外に学びの場を」という声が複数寄せられている。三宅町の既存施設（MiiMo等）・農地・商店・高齢者施設など、町全体を学びの空間として活用する「サテライト学校」構想への共感が広がっている。面積4.06km²というコンパクトな町ならではのリソース活用と人的つながりを活かせば、全国に先駆けた先進事例となり得る可能性を秘めている。

（6）三宅町で育むべきまなびのキーワード

教育大綱の4つの柱を軸にワークショップおよび住民対話データを分析した結果、三宅町の住民が育むべきだと考える学びのキーワードは下記のとおりとなった。

カテゴリ（教育大綱の柱）	コメント数	割合	キーワード
未来を生きる力の育成	127件	33%	非認知能力、レジリエンス、失敗から学ぶ力、幼小中の連続性
誰もが豊かに学びあえるまちづくりの推進	97件	25%	多世代交流、大人の学び、学校コミュニティハブ、開かれた学校
一人も取り残さない多様な学びの場の保障	93件	24%	居場所づくり、個別化学習、学校外の学び
子どもたちの安心安全の推進	65件	17%	見守り、相談スペース、地域連携、心理的安全性

参加グループ別の重点価値観

グループ	コメント数	割合	重視する傾向
地域住民	186件	48%	未来を生きる力の育成（32%）・誰もが豊かに学びあえるまちづくり（27%）を同等に重視
小学校教職員	78件	20%	一人も取り残さない多様な学びの場（31%）・放課後の居場所問題に具体的言及
保護者	52件	13%	未来を生きる力の育成（35%）・自己肯定感の育成
町議員	35件	9%	政策的視点での未来を生きる力（37%）・開かれた学校・教員支援
中学生	31件	8%	連続的な学びの継続と多様な学習方法

教育大綱の基本方針１：未来を生きる力の育成について（33%）

最も多くのコメントが集まった価値観である。「勉強ができる」だけでなく、自分で考え・選び・行動できる力、困難にしなやかに向き合うレジリエンス、そして失敗を恐れずに挑戦できる環境が求められている。幼児期から中学校までの連続的な学びの接続についても、全グループ横断的な関心事となっている。

教育大綱の基本方針２：一人も取り残さない多様な学びの場の保障について（24%）

「みんなが安心して自分らしくいられる居場所」という言葉が象徴するように、学習の場は能力や個性に関わらず誰もが排除されない包摂的な空間であるべきという価値観が強い。特に小学校教職員グループが最も高い関心を示しており（31%）、現場の肌感覚として学びの場の多様性が切実な課題であることが伝わる。

教育大綱の基本方針３：誰もが豊かに学びあえるまちづくりの推進について（25%）

学びは子どもだけのものではなく、地域全体が学び合う循環の中に置かれるべきという価値観が共有されている。世代を超えた知恵の受け渡しと、開かれた学校の場が地域の学習エコシステムを形成するという期待が背景にある。

教育大綱の基本方針４：子どもたちの安心安全の推進について（17%）

心理的安全性と物理的安全性の両方が、学びの質の土台であるという認識が共有されている。相談できる場・見守られている感覚・温かく清潔な環境が、子どもの学習意欲と自己肯定感を支える基盤となる。

（7）実現したい学校・まちの未来像

模型制作ワークショップで生まれた67点の作品を、主要テーマ（主タグ）と副次的テーマ（サブタグ）の二層で分析した。各作品の主テーマを2点、サブテーマを1点として加重集計することで、「前面に出る価値観」と「底流として共有される価値観」の両方を可視化した。

テーマ	メインタグ	サブタグ	加重スコア	割合
つながり・循環	18件	10件	46点	24.0%
居場所・安心	14件	9件	37点	19.3%
多世代・まざりあい	11件	13件	35点	18.2%
解放・越境	9件	4件	22点	11.5%
夢・挑戦	5件	10件	20点	10.4%
自然・環境	4件	12件	20点	10.4%
未完成・可変性	6件	0件	12点	6.3%
合計	67件	58件	192点	100%

分析から見えてくる3つのポイント

ポイント①「夢・挑戦」は最大の潜在テーマ

主要テーマとして前に出る作品は5件（全体の7%）にとどまるが、サブタグとしての支持は10件と多い。「挑戦」「成長」「笑顔」「ワクワク」という言葉は、他のテーマを語る作品の背景にも広く宿っている。「夢・挑戦」は住民が前に出して語りにくい価値観でありながら、最も多くの人が心の底に持っている共鳴音であるといえる。

ポイント②「多世代・まざりあい」は横断的な接続テーマ

主要タグ（11件）よりサブタグ（13件）の方が多い唯一のテーマである。「多世代交流」は単独の強い主張というより、「つながり」「居場所」「自然」「夢」など様々なビジョンの中に溶け込み、それらを結びつける接着剤的な価値観として機能している。

ポイント③「未完成・可変性」は独自性をもたらすヒント

サブタグが完全にゼロという唯一のテーマである。他のどのテーマとも複合しない。これを主テーマに掲げた6件の作品は、「変化し続ける学校」という信念を純粋に体現しており、多数意見に埋没しない独自性を提示する可能性として、全体の議論に多様性をもたらしている。

【注目点】

上位3テーマ（つながり・居場所・多世代）の加重スコア合計は118点（全体の61.5%）に上る。
一方、「自然・環境」と「夢・挑戦」はサブタグによって実質的な影響力が主要タグ単独の倍近くに拡大しており、
表面の順位では見えなかった「底流にある価値観」の豊かさが浮かび上がる。

求める未来①「循環するコミュニティ」としての学校

最多の18作品が「つながり・循環」をメインテーマにしたことが示すとおり、住民が求める学校は建物ではなく「循環する関係性の場」である。子ども・高齢者・教員・保護者・地域住民・町外関係者が学び合い、知恵を受け渡し、互いに影響を与え続ける生きたエコシステムとしての学校が求められている。

求める未来②「誰もが居場所を持てる」多層的な場

14作品が「居場所・安心」をメインテーマにしたことが示すように、学校はすべての人に心理的な「ここにいていい」という場所であるべきという強い要求がある。子どもだけでなく、大人・高齢者・障がいのある人も含め、多様な人が自分の居場所を見つけられる多層的な空間設計が求められている。

求める未来③「自然に混ざり合う」多世代交流の仕掛け

「強制されない交流」「気づいたら話していた」という自然な多世代共生への希求が見られる。制度的・形式的な世代間交流プログラムではなく、空間デザインや日常動線の中に多世代が混じり合うきっかけを組み込む設計思想が求められている。

求める未来④「境界をなくした」開かれた学びの空間

9作品が「解放・越境」をメインテーマに掲げた。校門・校塀・時間割・教科区分など、従来の学校が持つ様々な「境界」を問い直す視点が広がっている。地域の農地・商

店・高齢者施設などまち全体を学習空間として活用するサテライト型学校への期待もこの流れの延長にある。

求める未来⑤「未完成を許容する」進化し続ける学校

10作品が「未完成・可変性」を肯定的に描いた。これは単なる「準備不足」への容認ではなく、常に問い直し、変化し続ける組織としての学校への期待である。完璧な設計より、変化に対応できる柔軟な構造が求められている。

求める未来⑥ 幼小中を貫く「連続的な学び」

全グループ共通で指摘されたのが、幼稚園・小学校・中学校の学びの連続性。「せっかく小学校で育んだ力が中学で断ち切られる」という懸念が背景にあり、一人の子どもの成長を地域全体でつなぎ続ける縦断的なサポート体制が求められている。

求める未来⑦ 先生が幸せな学校環境

「先生が楽しそうに働いている学校に子どもは通いたい」という視点（8件の言及）は、教員の働き方改革と学びの質が直結するという住民の直感的理解を示している。教員がやりがいと余裕を持って働ける環境整備が、子どもにとっての豊かな学びの土台となる。

（8）潜在的な地域のニーズ・可能性

住民アンケートとワークショップでの成果物を横断的に分析することで、表層的な「要望」の背後にある7つの深層的な潜在ニーズや地域の可能性が推察される。

インサイト① 「孤立」への恐れが「つながり」への希求を生んでいる

「学校と地域のつながり（68.8%）」への関心が圧倒的である背景には、現代社会におけるコミュニティの解体と孤立化への危機感がある。学校へのつながり要求は教育への期待だけでなく、地域社会の再生・帰属感の回復への根源的な渇望の表れともいえる。地域のニーズを捉えるには、学校をコミュニティ再生の契機とする視点が重要になる。

潜在ニーズ：「自分は地域に必要とされている」という帰属感・存在意義

インサイト② 「管理された安全」ではない「信頼に基づく安心」への関心

「安全と開放性のジレンマ」（課題６）の深層には、監視・管理による安全から、信頼・関係性に基づく安心への価値転換への期待がある。物理的な鍵・カメラ・ルールだけではなく、かつての地域にはあった「顔の見える関係」「声をかけ合える地域」という人的・社会的な安全網への移行にも関心が集まっている。

潜在ニーズ：ルールではなく「関係性」による守り合い・支え合い

インサイト③ 高齢者を中心とした「役に立ちたい」欲求の活用

7割を占める60代以上の参加者のコメントを精査すると、「見守られたい・支援されたい」より「貢献したい・役に立ちたい」という能動的な意欲の方が圧倒的に多い。老いることへの不安を、次世代への贈与・知恵の伝達という意味ある行為で昇華したいという意識が存在している。この「先輩力」は三宅町最大の未活用資源である。

潜在ニーズ：「自分の経験が誰かの役に立っている」という晩年の生きがいと尊厳

インサイト④ 「未完成であること」への肯定──潜在的な共創者のひろがり

67作品中10点（15%）が「未完成・可変性」を肯定的に描いたことは、完璧な計画・完成した建物への期待より、変化し続けることができる柔軟な学校への期待が育ちつつあることを示す。これは未来を構想し続けながら、デザイン実践を積み重ねていく未来の学校プロジェクトの思想とも強く響き合う点である。今後、具体的な活動の舞台が生まれれば、今まで関わりのなかった住民との学校づくり・まちづくりがひろがっていく可能性が示唆される。

潜在ニーズ：参加することで生まれる「共創的なオーナーシップ」の可能性

インサイト⑤「先生が幸せな学校」が子どもの幸せをつくるという直感

複数の参加者が指摘した「教員が楽しく働いている学校」への期待の背景には、教育の質は制度や設備より、そこに関わる人の状態によって決まるという根本的な洞察がある。これは単なる「教員への同情」ではなく、子どもの学びの質と教員のウェルビーイングの相関を住民が直感的に理解していることを示している。

潜在ニーズ：「誰もが無理せず、喜んで関われる場」としての学校環境づくり

インサイト⑥「学びの連続性」の欠如が不安を生んでいる

幼小中の連続的な学びへの強い要求の背景には、「今せっかく育てた力が、進学・進級によって断ち切られてしまう」という既存の段階的教育システムへの構造的な不満がある。子どもの成長を「点」ではなく「線」として見守り続けるコミュニティの存在が求められており、これは学校という場だけでなく地域全体が子どもの育ちに関わり続けるシステム設計の必要性を示唆している。

潜在ニーズ：子どもの個性を尊重するための長期的な見守りの仕組み

インサイト⑦「三宅町らしさ」への問いがアイデンティティを育む

「三宅らしい教育観・教育法」（25.4%）への関心、プロジェクトメンバーが言及した「しなやかさ」という独自強みへの共鳴は、単なる差別化戦略ではなく、「三宅町とはどんな町か」という根源的なアイデンティティへの問いでもある。少子化・過疎化が進む中で、「ここに住み続ける意味」「ここで子どもを育てる意味」を学校プロジェクトを通じて問い直すことは、子どもを含めた全ての地域住民がここで生きていく意義を育む

潜在ニーズ：三宅町に生まれ・育ち・生きることへの誇りと意味の再発見

第４章　基本構想策定に向けて

① 今後の論点

地域住民の声をもとに、今後の「学校を核としたまちづくり基本構想」の策定に向けて特に議論が必要な論点を7つ整理する。

論点①「開放性のレベル」をどう定義し設計の起点とするか

「開かれた学校」には段階がある。地域住民の自由な出入りを認める「物理的開放」から、地域の人が授業を担う「機能的開放」、まち全体が学校になる「空間的開放」まで、どのレベルを三宅町の基本設計に据えるか。

安全管理と現行制度の範囲で実現可能な校舎・授業の解放から始め、段階的に条例・人員・財源の整備を検討していく必要がある。

論点② 幼小中の連続的な学びをどう制度設計するか

「小学校で育てた力が中学でリセットされる」という声（⑦求められるもの⑥・保護者グループ10件）に応えるには、施設の一体化だけでなく、カリキュラム・人事・評価の連続性をどう担保するか。

三宅町の小規模性は担任持ち上がり制・地域メンター制を実現しやすい強みである。制度設計の優先順位として、まず「社会的連続性（地域メンター）」を先行させ、その後に施設・カリキュラムの一体化を段階的に進めることが現実的だといえる。

論点③ 多様な住民の参画をいかに推し進めるか

参加者の74%を占める60代以上が「貢献したい」という能動的意欲を持つ。しかしこの意欲は現在「参加した人の声」に留まっており、持続的な仕組みになっていない。どのような制度で地域の大人の力を活かすか。「参加したいが何をすればいいかわからない」という戸惑いへの応答として、「できることリスト」と「参加の入口」を明示した制度設計が必要。小さな参加体験の積み重ねが継続的な関与につながる。

また、本事業期間中では若年層・保護者の参加率が低く、学校現場の当事者の声を十分に聞き取れなかったという課題が残る。学校建て替え予定時期に入学する子どもがいるご家庭など、将来のステークホルダーを見越した対話の場が必要となる。

論点④ 教員のウェルビーイングをどう構造的に担保するか

「先生が幸せな職場をつくれないと子どもも幸せになれない」という意見が多く指摘されるとおり、未来の学校づくりの過程で、新しい取り組みが教員の負担増につながりかねないという懸念も同時に存在する。この矛盾をどう解消するか。

教員のウェルビーイングは「感謝を伝える」「働き方改革をする」という個別対応では限界がある。「教員がやりがいを持てる職場をシステムとしてつくる」という組織設計の問いとして基本構想に組み込む必要がある。

論点⑤ 世代間の関心・ニーズをいかに学校づくりに活かすか

クロス集計で明らかになったように、同じテーマについて世代ごとに優先事項が異なる（例：中年層の「大人の学び+14.7pp」vs 若年層の「三宅らしい教育−8.4pp」）。基本構想の策定にあたって、どの世代のニーズを設計の優先順位の高い位置に置くかを検討する必要がある。

「すべての世代の声を等しく反映」という原則のもとで、世代ごとに「特にこれが必要」という独自のニーズがある。基本構想には共通ビジョンと並んで「世代別の応答設計」を組み込むことで、誰もが「自分の声が反映されている」と感じられるコミュニティスクールを目指したい。

論点⑥ ハード（建物）とソフト（教育）の議論をどう分離・統合するか

「教育の理想を語る場」と「校舎建て替えの設計を決める場」が混在しているという指摘がある一方で、「建物の設計はまちの教育に対する思想を先に決めないとできない」という事実もある。住民とのコミニケーションでは、今回のワークショップで行った、教育の根幹となる思想・哲学に関する話し合いに加え、理想とする未来像や風景、そのためのソフトのプログラムデザインを主要な関わりしろに設定し、建築設計条件への落とし込みやコスト・制度設計は、専門家（設計者・財政担当者）が住民の声を「翻訳」する作業として進めると、混乱が少なく参加者の安心感も高まると予想される。

論点⑦ 未完成を許容するガバナンスをどう設計するか

住民が求めているのは「完璧な計画」ではなく、継続的な「一緒につくり続けられる学校」である。しかし行政の計画策定プロセスは通常「完成形の決定」を求める。この矛盾をどう制度的に解消するか。

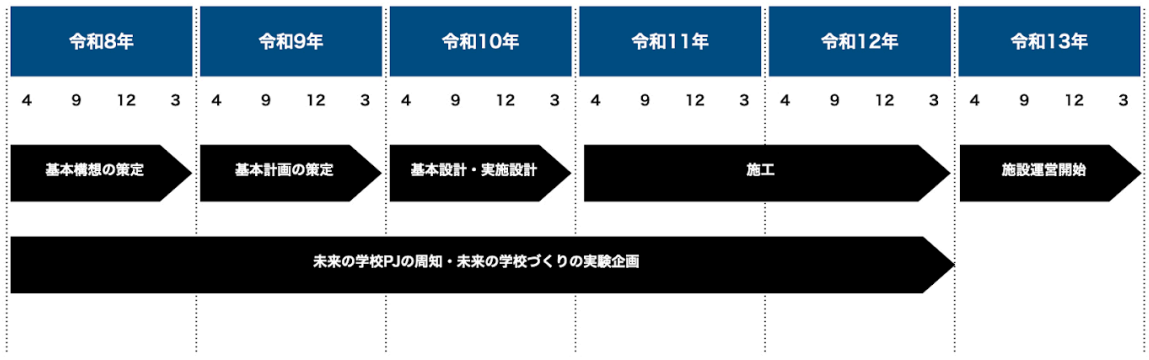
「未完成を許容する」とは「何も決めない」ことではなく「決めた後も変え続けられる仕組みを決める」ことである。このガバナンス設計こそが、10年後・20年後も住民と学校の関係が生き続けるかどうかを左右する最重要の論点である。例として、下記のよう

なガバナンスの仕組みを整備することで、漸進的な学校づくりの運動を継続することができ、地域住民からの信頼も高まると言える。

- 定期的な「住民の声」集約の制度化 — 継続的な対話会を計画に明記
- マスタープランと年次実行計画の分離 — 10〜20年のビジョンは固定しつつ、3年ごとに見直す実行計画を別途策定
- 「共創委員会」の常設 — 住民・教員・行政・専門家が対等に参加する継続的な意思決定体を設置
- 子どもの参加の制度化 — 子ども会議を学校設計・運営の公式な意見収集ルートとして位置づけ
- プロセスの記録と公開 — 対話・決定・変更の履歴を「未来の学校づくりレポート」として蓄積・公開

②スケジュール

三宅小学校の耐久年数から逆算すると、令和13年前後には耐震措置を講じる必要がある。令和８年中に基本構想の策定と周知を行い、令和９年に基本計画の策定、令和10年に基本設計・実施設計、令和11年〜12年に施工を進め、令和13年〜14年に施設の運営を開始できることが望ましい。滞りなく、効果的に事業を進めるためには、継続的な地域への情報周知と、ソフト面での学校づくり・まちづくり事業が重要となる。



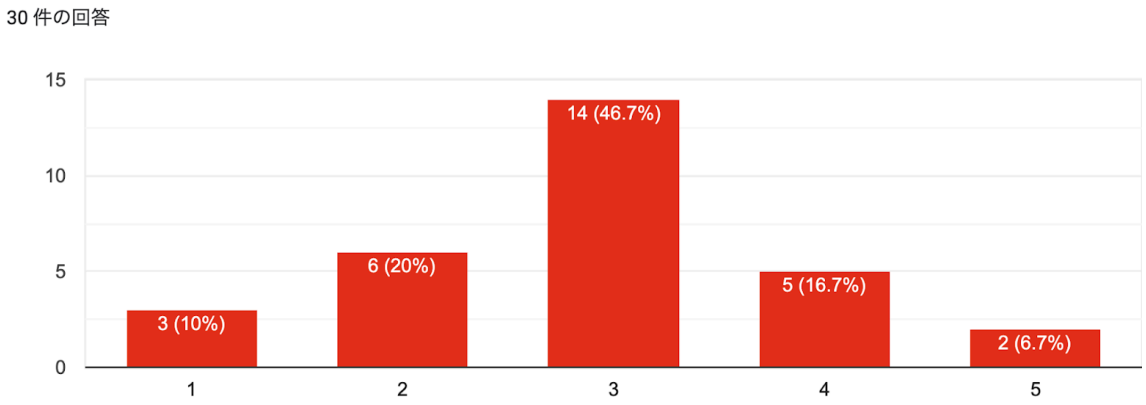
③まとめ・今後に向けて

本事業では、第３期教育大綱の理念に基づき、4ヶ月間の対話会やワークショップをとおして、1000人近くの三宅町民の声を収集すると共に、未来の学校・まちの可能性についての話し合い・プロトタイピングを行った。対話をとおして多くの参加者が三宅町の教育方針や今後の学びのありかたについて理解・共感を深め、より具体的な学校づくりへの関心・機運を生むことができた。本報告書は、住民意識の調査分析をもとに、基本構想策定に向けた教育理念の方向性と今後探求すべき論点を整理したものである。言うなれば、地域と共に未来の学校・まちのコンセプトを定める基本構想の「上巻」である。今後は７つのビジョンに基づいて、専門家の知見も交えながら個別の論点や課題・障壁について議論を重ね、三宅小学校・式下中学校を中心とした学校・まちづくりの新しい様式を具体化した「下巻」の制作を進めることが必要となる。

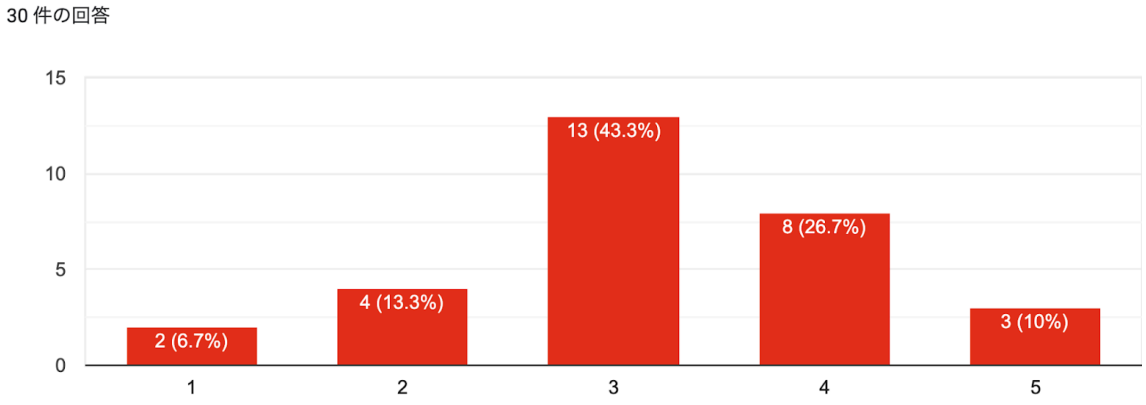
第５章　参考資料

①新成人アンケート（30名）

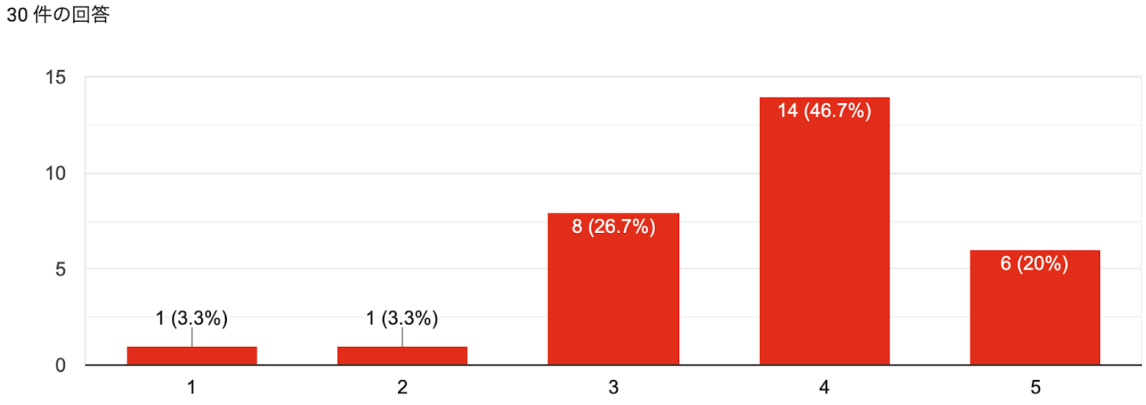
⑴普段、三宅町の学校やまちづくりに関心はありますか



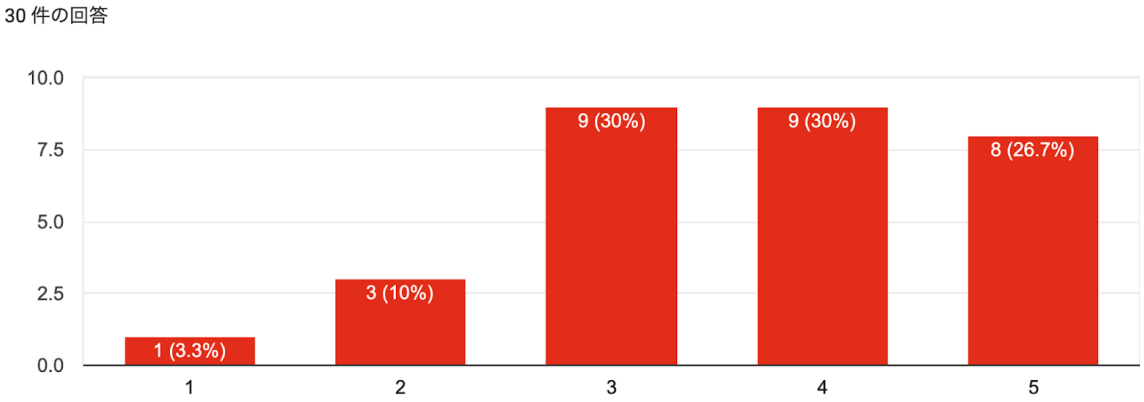
⑵未来の三宅町の学校やまちづくりに関心はありますか



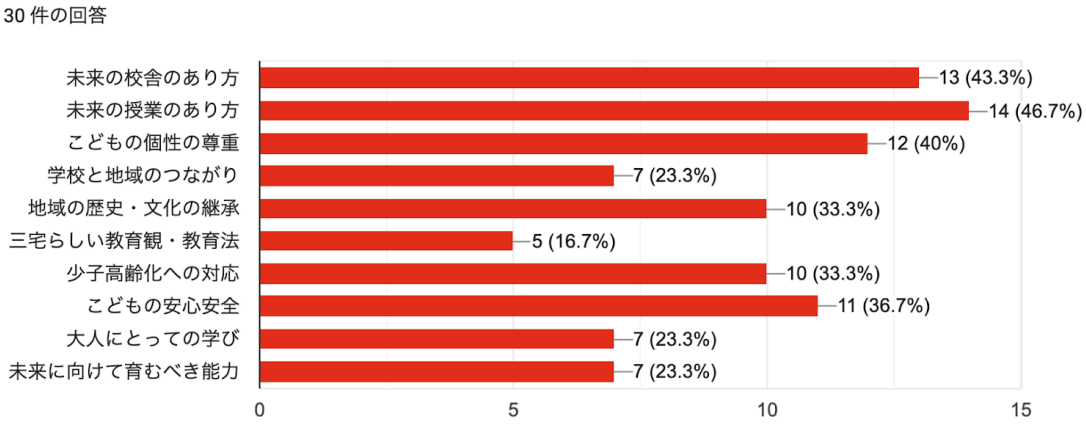
⑶未来の学校プロジェクトの内容について、理解できましたか



⑷未来の学校プロジェクトの理念や方針について、共感できましたか



⑸未来の学校やまちづくりを考える上で、あなたが特に「大切だと思うテーマ」にチェックしてください



⑹小中学生に戻るとすると、どんな環境・仕組みで学びたいと思いますか

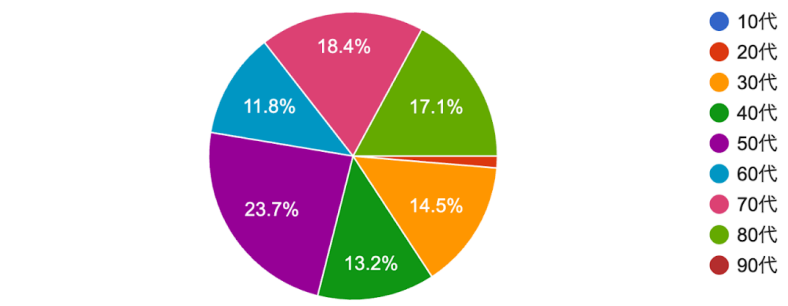
AIの導入
過ごしやすい環境
綺麗な教室

ICT設備がしっかりと整った環境
スポーツ設備の向上
もっと生徒主体の授業体制
廊下が底冷えしない環境
より協働的な授業展開であれば、より深い学びにつながるとおもいます
個人を尊重してもらえる環境。手触りをもった経験をとおして、学びの楽しさや価値を身につけられる場所
自由な環境
子供が座学だけに留まらず様々な経験ができる環境
グループディスカッション中心の授業にしてもらえると、就活の時に役立つのではないかと思う。
教育人材・教材・道具が整っている環境

②その他 出張アンケート（76名）

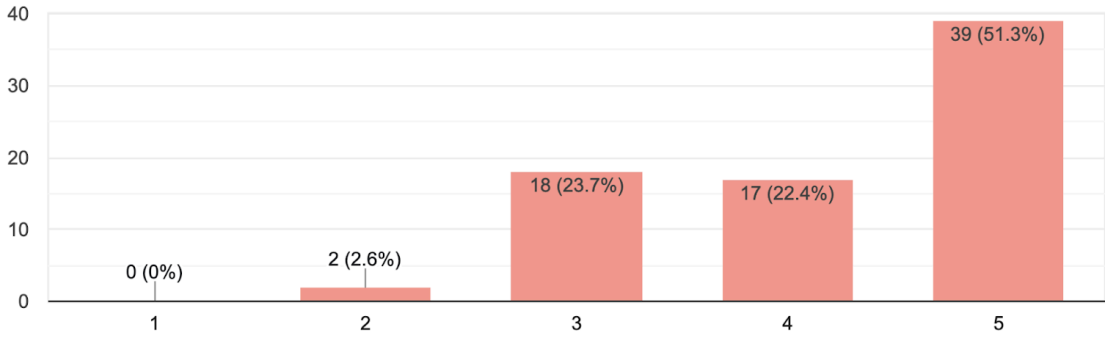
⑴年齢

76 件の回答



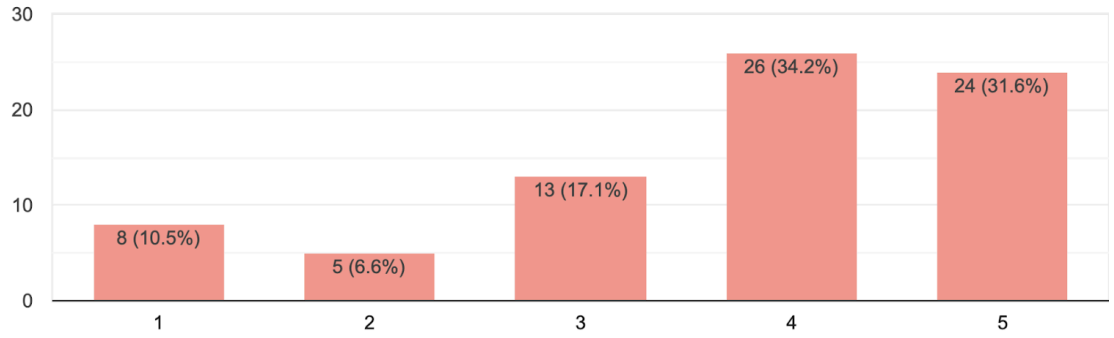
⑵普段、三宅町の学校やまちづくりに対して関心はお持ちですか

76 件の回答



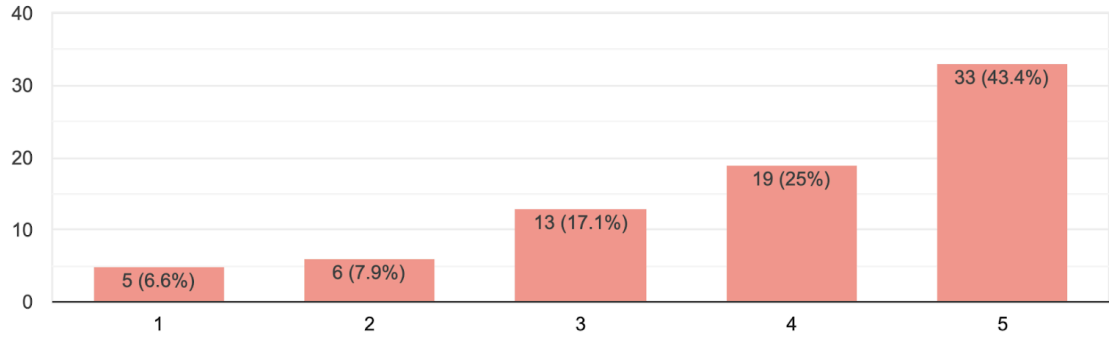
⑶未来の学校プロジェクトの内容について、理解できましたか？

76 件の回答

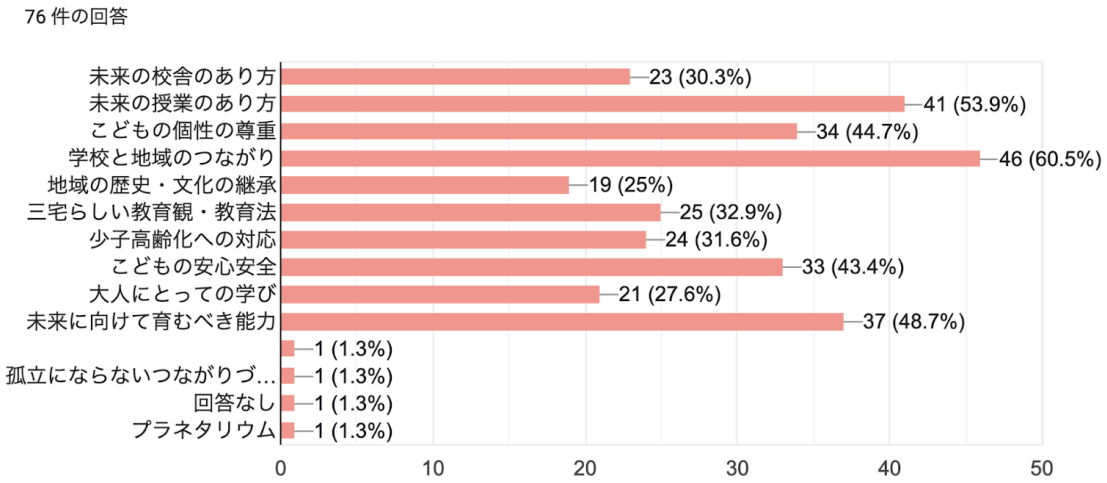


⑷未来の学校プロジェクトの理念や方針について、共感できましたか

76 件の回答



⑸未来の学校やまちづくりを考える上で、「大切だと思うテーマ」にチェックしてください



⑹代表的な意見

地域・多世代との連携への期待

- 学校が日常的に多世代交流できる場所になってほしい。
- 地域と学校がどのようにつながっていくのかが気になる。地域の学びが学校にあり、地域に学校の学びがあるような関係になれれば良い。
- 三宅町だからできる学校と地域のつながりは大切。

非認知能力・新しい教育への共感と留保

- 非認知能力を育てることに共感するが、不登校者が多数出ている現実もある。パワーワードだけでなく、三宅町の革命を楽しみに見ていきたい。
- 非認知能力と認知能力のバランスよく見守ってほしい。

先生・現場への懸念

- 従来の授業と未来型の能力育成を同時に担うとすれば先生方の負担が大きい。責任の所在が問題になりかねない。
- 教師が外部に頼りすぎると力はつかない。管理する側がしっかり見る必要がある。

教育方針と建て替えを分けるべき

- 教育方針について考えるのは良いが、建て替えとは別の会議でするべき。

住民・子どもを主役に

- 学校は地域のものなので、地域の方々の声を大事に、かたちにはまらない学校をつくってほしい。

- 大人も子どもも含め、まち全体で考えていくと面白い。学校の授業に子どもたちが理想とする学校を考える時間を取り入れると、大人が思いつかない発想が出てくる。
- 子どもたちに共感できる「未来からの留学生」の考え方。非認知能力の育みだけで終わらず、その力を使って何をするのかを明確にしてほしい。

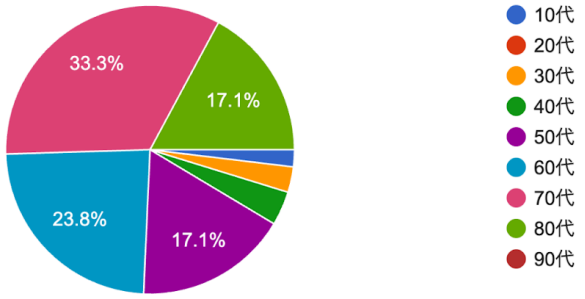
費用・持続性

- 良いものを取り入れようとすると費用面で際限なく膨らむ。60～70年先の次の建て替えも見据えた形で考える必要がある。

③自治会出張対話会参加者アンケート（105名）

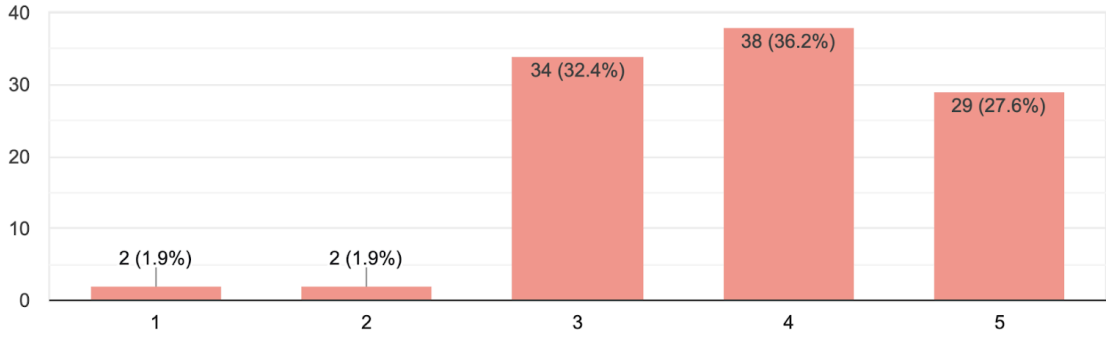
⑴年齢

105 件の回答



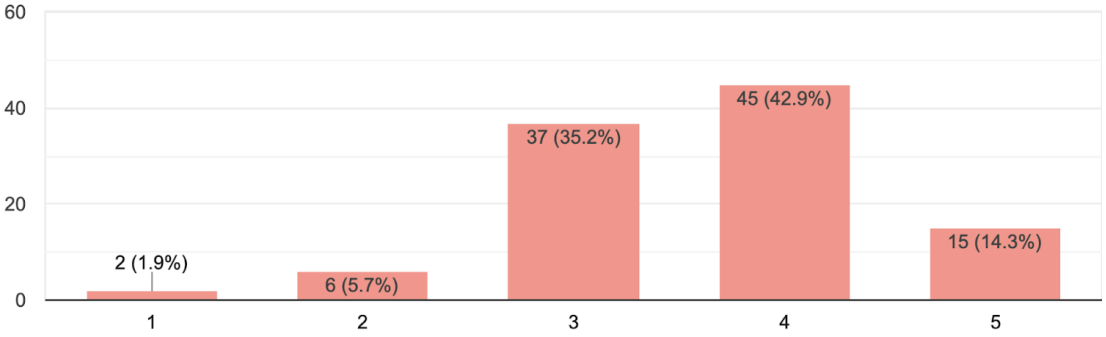
⑵普段、三宅町の学校やまちづくりに対して関心はお持ちですか

105 件の回答

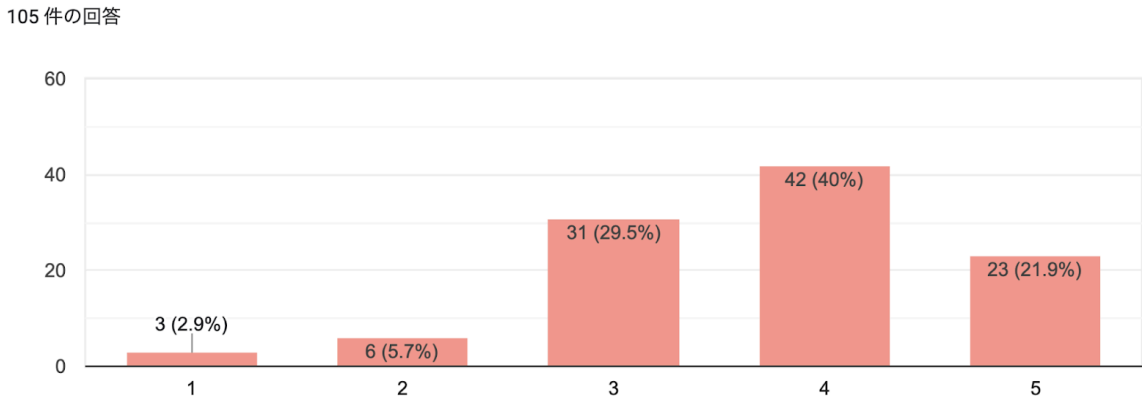


⑶未来の学校プロジェクトの内容について、理解できましたか？

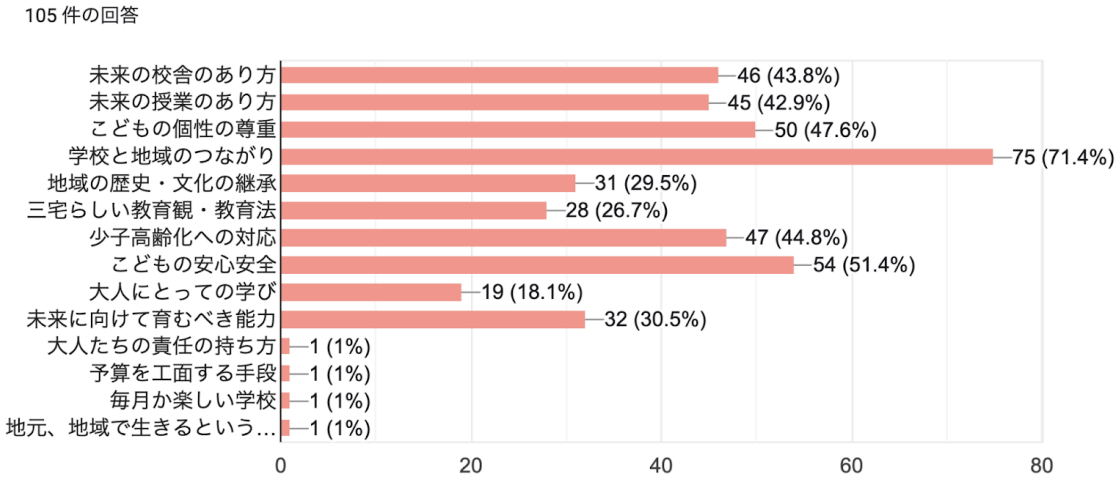
105 件の回答



⑷未来の学校プロジェクトの理念や方針について、共感できましたか？



⑸未来の学校やまちづくりを考える上で、「大切だと思うテーマ」にチェックしてください



⑹代表的な意見（自由回答）

子育てを終えた世代が関心を持てた ● 子どもが成人してから小学校の動向が耳に入らなかったが、地域でつくるという視点から、町民で話すことの大切さを改めて感じた。 ● 老後のことばかり考えていたが、学校・子育ての大切さに目を向かされた。
三宅町の取り組みへの感銘 ● 三宅町がこのような取り組みをしていることは知らなかった。もっと多くの人に知ってもらいたい。

- これからの学校について三宅町が真剣に考えていることに驚いた。地域住民を巻き込んで一緒にまちづくりをしようとする理念は素晴らしい。

先生・現場の声を聞いてほしい

- 学校現場が大変な状況であるなら、そこに新しいことを加えるのは現場の負担が増える。子どもにとっても先生にとっても笑顔になれる学校づくりであってほしい。
- 学校のことを考えるのだから、学校現場の今の声をもっと聞いてほしい。力のある教師・管理職・地域代表者が同じ熱量で進めないと実現が遠くなる。

具体化と継続的な情報共有

- プロジェクトの内容は理解できたが、具体化されていない。これからどんな学校にしていきたいのか考えていきたい。
- 進捗も含め、保護者・祖父母にも分かりやすい計画の見える化を。
- このような意見交換の場を定期的に開催してほしい。

式下中学校の問題

- まず、式下中をどうするかを決めないと進まないのではないか。

大人と子どもの関係・地域の役割

- 大人が働く姿を子どもたちに見せることが大切。地域に出かけてつながりをつくるのが良い。
- 子どもの心理的安全が確保され、年代・性別・国籍に関わらず人々がつながれる町・学校になってほしい。

⑺未来の学校づくりにどのようなことを望みますか？子どもたちのために、大人が大切にすべきだと思うことがあれば教えてください

高齢者・世代間交流

- 少子化で教室が空いてくると思う。高齢者との触れ合いができる教室の作り方を考えてほしい。
- 老人と子どもが一緒に生活する学校。

子どもの主体性・個性の尊重

- 子どもが主体性を持ちながら、やりたいことを見つけられる学校づくりを一緒に考えたい。
- 子どもが自分たちで考え、挑み、組み立てていく力を育てる基盤・仕組みづくり。

大人の姿・余裕の大切さ

- 大人が余裕をもって楽しんでいる姿、「働くって楽しい」という姿勢を見せることが未来への希望につながる。
- 大人の心の余裕がないとどんどん厳しくなる。学校をまちづくりの中心に据えることを、子どものいない高齢者世帯にとっても必要性を感じさせられるか。

保護者・若い世代の巻き込み

- 保護者の壁をなくして意見を言い合える会を大切に。若い世代の参加促進が重要。

不登校・インクルーシブな環境

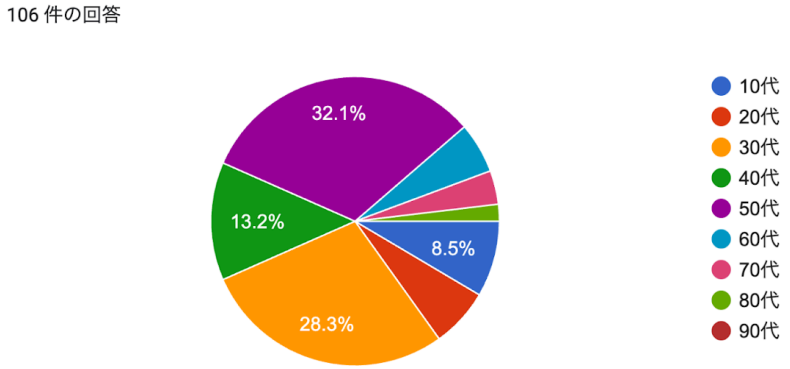
- 不登校の子どもたちが過ごしやすく、教育の機会を失わないようにしたい。
- 「対話する力と技術」が大切。子どもにも大切な力であり、大人も大切にしたい話し合いの方法。

学校を地域コミュニティの中心に

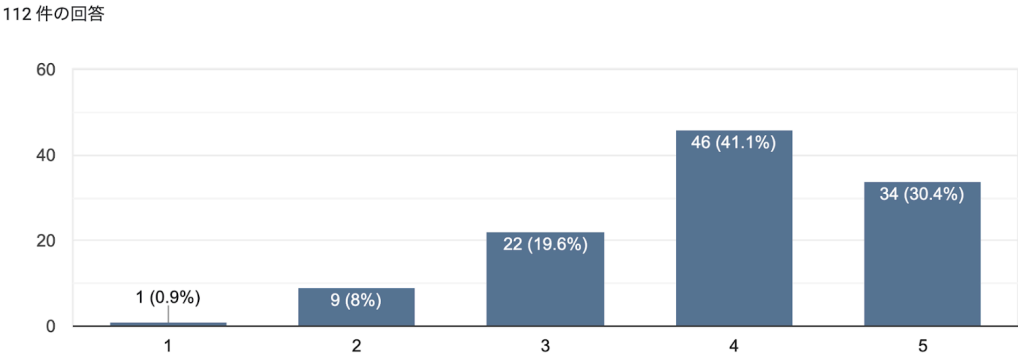
- 学校が地域コミュニティの中心になる場所にしてほしい。
- 小学校を中心に幼児園や高齢者施設、地域の人々が日常的に交流できる学校であれば、町への愛着を持った人間が育つのではないか。

④ワークショップ1時間目 参加者アンケート（108名）

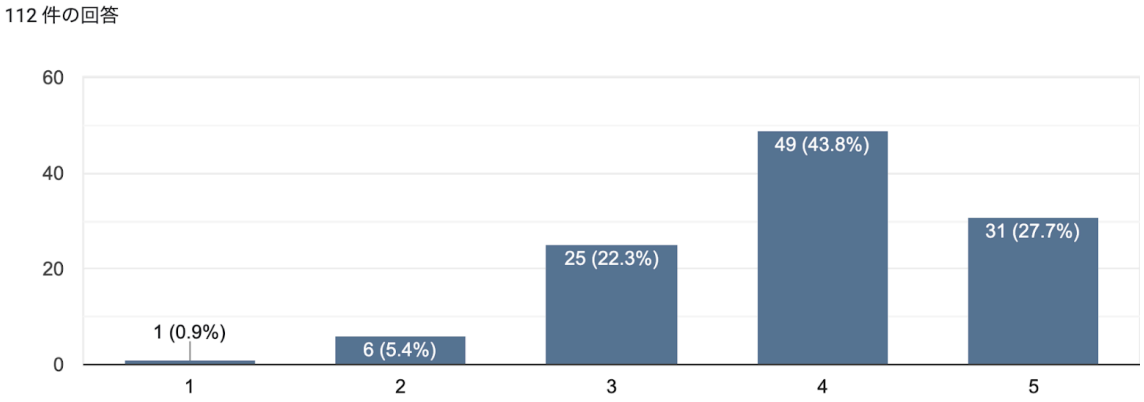
⑴年齢



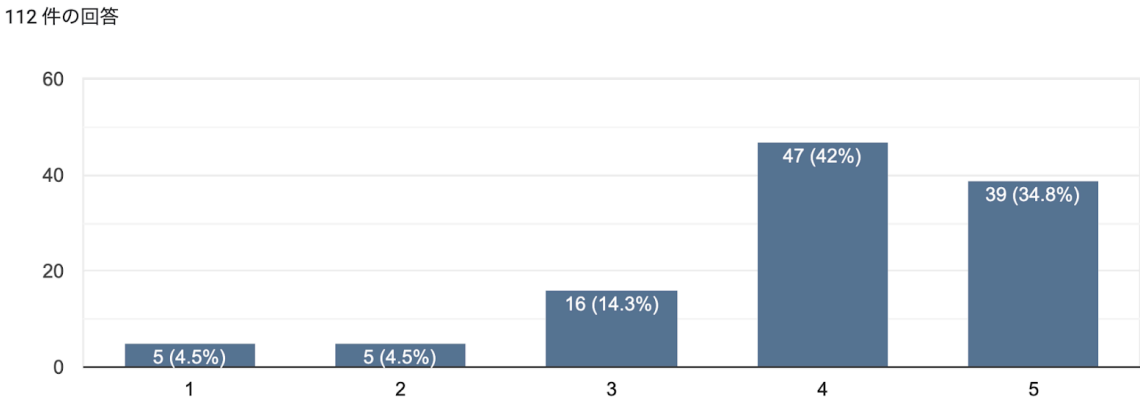
⑵未来の学校やまちの課題・可能性について理解は深まりましたか



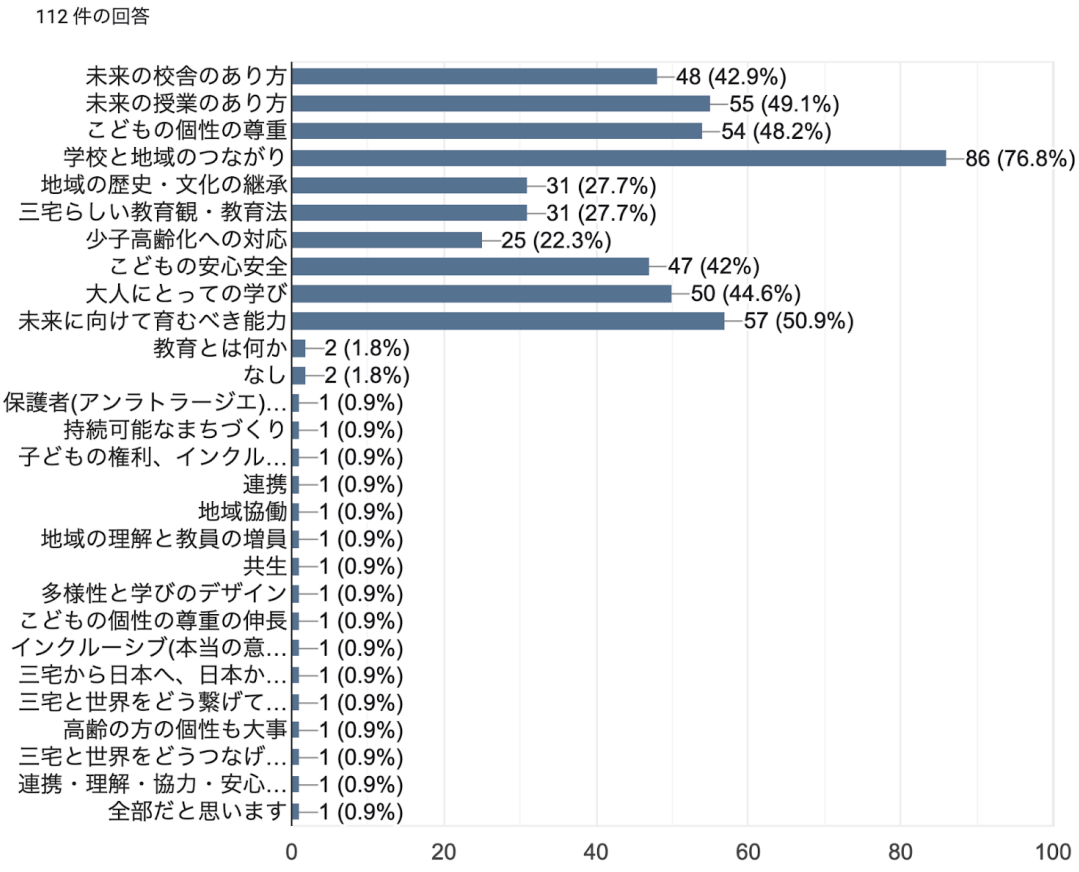
⑶三宅町の未来について想像をひろげることができましたか



⑷三宅町の教育大綱の方向性について、理解は深まりましたか



⑸未来の学校やまちづくりを考える上で、「大切だと思うテーマ」にチェックしてください（複数回答可）



⑹代表的な意見（自由回答）

多世代・多様な立場による対話の価値

- 世代や属性を超えて意見を出し合うことは大切。高校生の斬新な意見に刺激を受けた。
- 仕事・立場が違うと見方が変わる。反対意見も含め、未来の可能性に向けて真剣に話し合うことが大事。

保護者を巻き込む難しさ

- 平日19時からの集まりはなかなか難しい。子どもを主軸に、子どもが保護者にインタビューして意見を持ち寄るような間接的な手法も有効ではないか。
- どうやって町民を集めるかがすごく難しい。

大人が変わる必要性

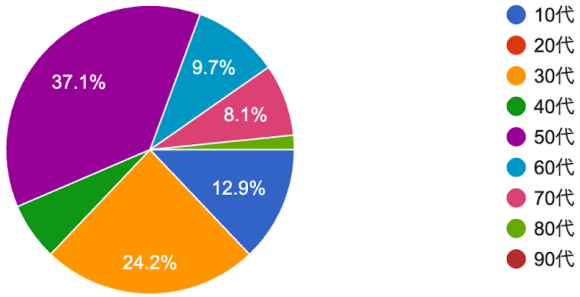
- 大人が変わらないとなあ。子どもの発想は素晴らしい。子どもたちが何を考え

ているか知る機会が大切。 ● 子どもの学びの場をテーマにすると、大人側の課題が大きいと再確認した。 ●
学校・地域・家庭の連携 ● 学校・家庭・地域が同じ方向を向いて進めていくことが大切。特に保護者（家庭）の「力」が必要。 ● 大事なテーマは相互理解（学校と地域、先生と子どもと保護者）
三宅町の強みは「つながり」 ● 宮北さんの言葉「三宅町の強みはしなやかさ」が印象的。 ● 個人的に三宅町の魅力は「つながり」。それを活かせるよう力添えしたい
具体性の必要性 ● 三宅町はいろいろ考えていることは分かった。ただ「具体的に何をするのか」が大事。 ● 決定していることを踏まえた上で話し合いをするといい。
放課後の子どもの居場所 ● 放課後に子どもの行くところがないというのは早急に対処が必要。

⑤ワークショップ2時間目 参加者アンケート（62名）

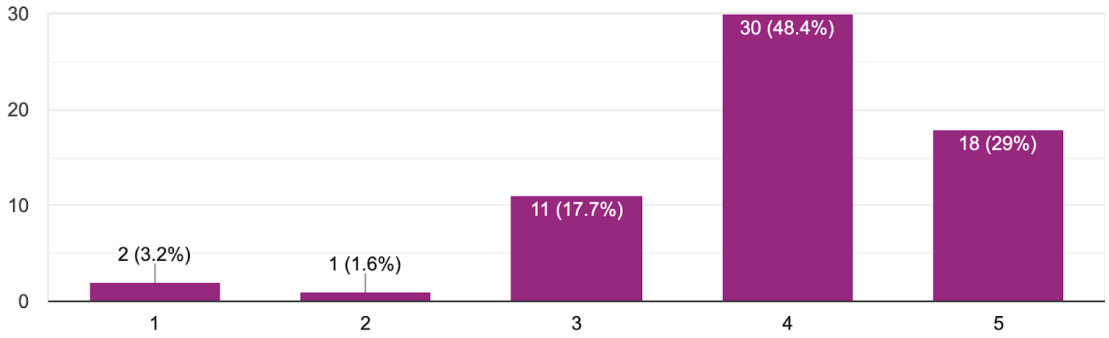
⑴年齢

ご年齢
62 件の回答

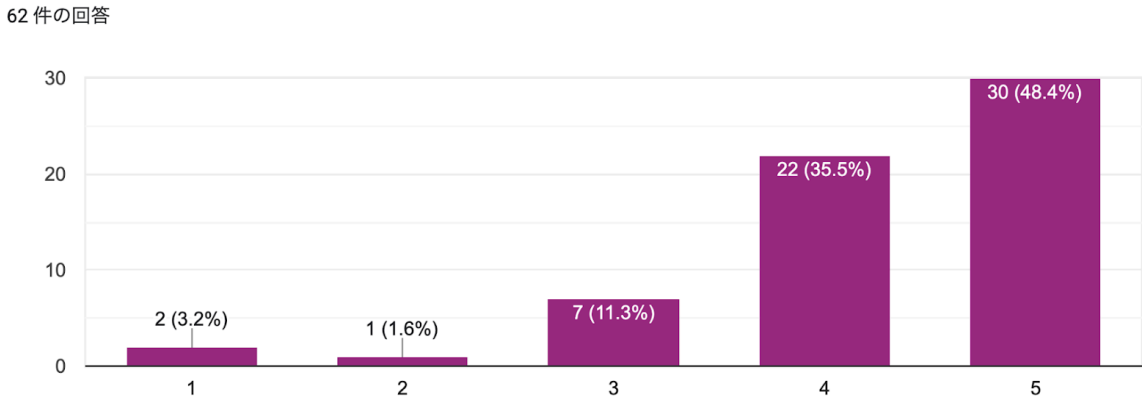


⑵未来の学校やまちの課題・可能性について理解は深まりましたか？

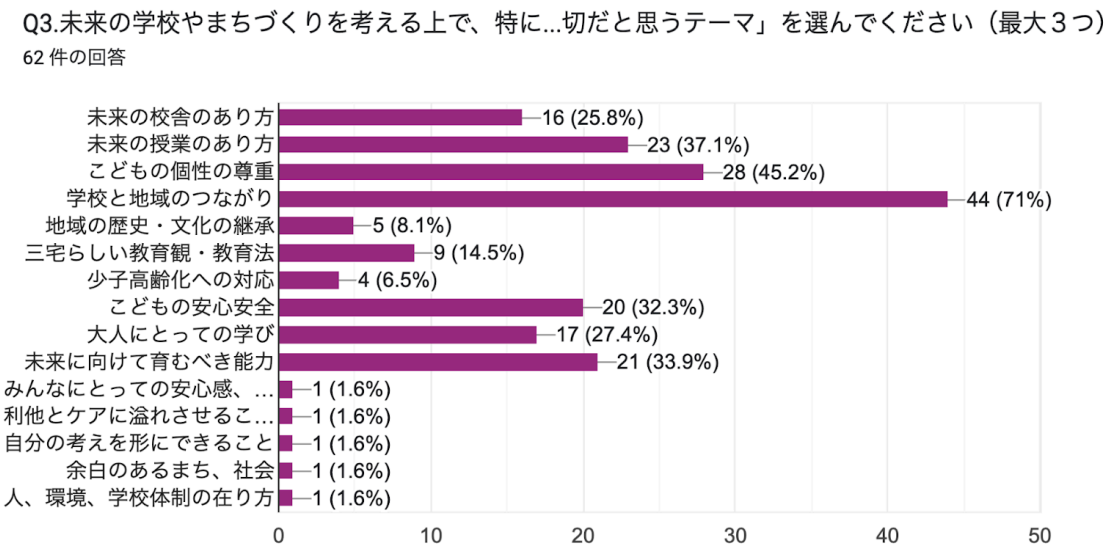
62 件の回答



⑶三宅町の未来について想像をひろげることができましたか？



⑷未来の学校やまちづくりを考える上で、特に「大切だと思うテーマ」を選んでください（最大３つ）



⑸代表的な意見（自由回答）

模型・工作ワークによる思考の可視化

- 手を動かしていくうちに、自分の中で学校・町に期待していたことの姿がより強く浮かび上がった。
- 言葉で言うと形骸化することがイメージで持てると広がっていく。

多様な発想・視点への気づき

- それぞれ見ている視点・考えているイメージが違って刺激になった。こんなワークショップ形式がたくさん開かれ、ひとつのものを作り上げていけたら素敵。
- 子どもの作品から見えてくることが多くある。子どものワークショップは大切。

つながりへの共通の思い

- 選んだテーマが違っても、みんな「人とのつながり」を大切に思っていると感じた。

可視化・具体化の必要性

- 建て替えをまだ「想像の中のこと」のように感じている人も多い。学校づくりの具体例を可視化し、「こんな学校にします、いかがですか」と手直しするきっかけづくりの場をつくることが必要。

対話時間の不足

- 参加者同士の話す時間があまりなかった。もっと深められるとよかった。

⑹あなた自身が、未来の学校・まちづくりのために学びたい・考えたいと思えるテーマは？（自由回答）

先生・教員の働き方

- 先生が働きたいと思える学校について考えることが重要。
- 教員はなぜ忙しいのか、何がしんどいのか。昔はもっと自由奔放な先生がいたように思う。

世代を超えた居場所・交流の仕組み

- 世代間を繋ぐにはどうしたら良いか。小中卒業後は「地域」との関わりがほぼなくなる。大人も地域に居場所をつくれるようにするには。
- 異なる年代の人が一緒に楽しめる居場所（例：同じ場所で異世代が共存）。

子どもの主体的な学び

- 子どもがこれを学びたいと思った時にそれができる学校。教員だけでなく支える人材をどう集め育てるか。
- すべての子どもが夢中になれる学びとは？何をどう学ぶか、誰がそれを決めるのか？

ソフト面・意識の変革

- 学校・まちづくりはハードウェア的な課題だが、並行して大人の意識がどう進んでいったらいいかも考えることが大事。
- 学校はハードよりもソフトが大切。

リアルなつながりによる自己肯定感

- SNSが普及し生きづらい世の中で、リアルなつながり・地域の方との触れ合いを通して自己肯定感の高い子ども・大人でいられるまちになってほしい。

持続性・コスト

- **運営コストや維持費を抑えて持続性をどう保つか、が重要なテーマ。**

⑥ 教育大綱の４つの柱に対する意見（108名）

教育大綱の基本方針１：未来を生きる力の育成

保護者	「幸せ」を感じる瞬間があること
保護者	「今」を大切にする力
保護者	BBQで自分たちでごはんを作る
保護者	一貫校にする
保護者	子ども一人ひとりを認める、受け止めるはとく言われるが、親や家庭のことも認めてほしい
保護者	子ども会の復活
保護者	自分で考えて言葉にして発言する力をつける
保護者	自分の「これから」を想像することができる
保護者	実践して自分で調べて学ぶ力をつける
保護者	親が柔軟な考えを持つ
保護者	人生100年世界なので0~15歳だけでなくもっと連続性をもってもいいのでは？

保護者	先生の枠を超えて年長者の知恵と考えを子どもにどう伝えるか
保護者	大人、年齢、国など関係なくいろんな人と話せる力をつける
保護者	地域の連携が必須
保護者	挑戦したい気持ちの受容と応援
保護者	非認知能力の育成にまずは個々を否定せずに受け売れ自己肯定感を高めていってほしい
保護者	防災キャンプ
保護者	幼少中一つの場所でみんなが顔の見える関係づくり
地域	キャリア教育をもっと充実させてほしい
地域	スマホで調べる力
地域	今を精一杯生きる
地域	他の人に説明する力
地域	他人に助けてもらう力
地域	大人から力を借りる力

地域	誰が・なにが。自分にとって必要かを見極める力
地域	未来はわからないという謙虚な姿勢が必要
小学校	→できないと思ったことができた！→達成感
小学校	→周りの力が必要（協調性）
小学校	0→12歳までは距離のこともあり連続性も感じるが、小→中には大きな隔たりを感じるので大網と現実に差を感じる
小学校	AI活用
小学校	この力は未来ではなく、今も必要なことでは？非認知能力と力＝具体的なシーンは？
小学校	したいことを実現できたとき
小学校	そもそも幸せと感じる大人ってどれくらいいる？
小学校	一人ではできないこと（困難＝どんな場の設定ができる？）
小学校	学力と非認知のバランスが必要
小学校	義務教育学校
小学校	個性・規律のバランス

小学校	子どもが様々な人に頼れる関係性
小学校	子どもたちが未来を幸せに生きるために困難に立ち向かう力が必要だと思われるが、たくさんの失敗をする場が少ないように思われる
小学校	自分を知る（得意/苦手/必要な助け）
小学校	親が「あの子と関わらせるな」と言ってくる中で、どうやって協調性を育むのか
小学校	専科（体育/英語）
小学校	中学校↔小学校　教員派遣
小学校	粘り強さ
小学校	粘り強さをどうやって作る？
小学校	非認知能力
小学校	非認知能力の育成のために教育活動を行っている教師が少なく感じる
小学校	未来を想像できないとこれらの力が幸せにつながるのか分からない
小学校	幼小中での学びを互いに知る
小学校	幼少中の連携

小学校	幼少中教員の情報共有の場
中学校	コミュニケーション対話
中学校	たくさん読書をして、いろんな経験や考え方があることを知る
中学校	みんなで協力してなにかをつくる経験
中学校	愛
中学校	家庭で学習する習慣
中学校	学校運営への子どもの参画
中学校	自己管理する力の育成　・今何をすべきか／いつまでに何をすべきか　→計画する力
中学校	失敗しても負けない心を育成する
中学校	中庭にベンチがあるような環境
中学校	年齢にとらわれず話（コミュニケーション）がとれる場
中学校	保護者も家で学習する
地域	テストをやめる

地域	もっと自然と触れ合う（きれいな川がないけど）
地域	学びの連続性を　→どんな「学び」なのか？　→「連続」のイメージは？
地域	経済的な基盤を整えることの意味を学ぶ
地域	五感をを使った遊びを増やす
地域	高齢者が外に出て子どもとふれあう（繋がりを増やす）
地域	中学校を組合立から三宅町立にする→単に分離するのではなく川西町の子供たちにとっても幸せな結末にしたい
地域	未来を想像する力を育成できたらbetter
地域	自己決定できることが大切。自己決定できるようになるには自分のことを信じることが大切
地域	失敗から学べば失敗は失敗ではない教育
地域	保育者や保護者は子どもの力を信じ見守ることが大切
地域	未来を生きる力＝多様性、経験　できる限り多くの人が集うことが重要
地域	幼児教育、家庭教育を充実させる→そのためのカリキュラムってどんなものがあるだろう
地域	幼少期から自分で挑戦できる環境が必要

議員	愛国心教育
議員	異年齢の交流の場（社会見学）を設けていろんな場面でそれぞれどんな子どもかをお互い知る
議員	一緒につくりあげていく体験学習→他の子の気持ちを知る
議員	学校は町の中心であるのが地理的にも理想
議員	子どもと大人の遊べる場
議員	子どもに対しての過度な向き合い
議員	自分と違う他者と関わる力
議員	自分の考えを持つ、社会で生きる、夢を持つ。そのような大人を見せる
議員	先生の子どもに任せる度量　→それを認める町
議員	先生や町の大人が自分の考えを持ち社会性を持つこと
議員	体を使って体験として知る知識（AIには無理）
議員	大人への尊敬と子どもへの愛着
議員	答えがある問の答えを知っていることではない

地域	「学び」に向き合う体力をつけられるような学校
地域	やりたい！という気持ちはどこから生まれる？
地域	間違っても恥ずかしくない！大丈夫！！
地域	基礎教養＝共通言語をつくる（民主主義がベース）
地域	兄弟や姉妹がいない子どもは共有させる
地域	子どもたちが考えて授業をする
地域	自分で考え言語化して人に伝える力を育てる
地域	人の気持ちをおしはかる力はどこから生まれる？
地域	知識を身につけるだけでなく体験を増やす（三宅町にあるもので）
地域	哲学
地域	豊かな（深い）友人関係が築ける
地域	思いっきり大失敗とやりなおしができること
地域	いろんな経験をさせる。

地域	サバイバルスキル・食育
地域	スポーツ（遊び）をみんながやる！その場をつくる
地域	スマホで調べるような授業があったらいい
地域	プレイヤーセンターどの考えを住民全体に共有してもらう
地域	横の社会をつくる
地域	希望をもつ=想像力を育む
地域	共同で教育。
地域	経験ある大人と年齢に関わらず、ひとつの輪になり、物・作品を作り上げる
地域	自分がどうすることが幸せなのかに気づく力をつける
地域	自分が興味を持てることをさせる
地域	小学校・中学校全体で盛り上げたい
地域	多くの視点をもつためのいろんなことを経験する機会
地域	多様性も大事だが、基礎的・基本的な学習の基盤もしっかりとあってほしい

地域	大人が先に粘り強さをみにつける
地域	諦めない力をつける
地域	乳幼児期の教育福祉をもっと充実させたい→幼児園をもっとひらけた場所に
地域	非認知能力を重視しすぎて、本来の学習がおろそかにならないか
地域	普段から幼少中が関わり合える場所づくり
地域	保護者が取り残されるのでは？
地域	未来を生きる力って具体的にどんな力？→問題解決力、自己肯定感
地域	学びの連続性
地域	家庭で子どもたちの力をどのように育成する？
地域	教員が学び、成長できるサポートができている？
地域	非認知能力は大人も大切
地域	連続性を大切にすることで一緒に成長していくことができる

教育大綱の基本方針２：一人も取り残さない多様な学びの場の保障

地域	ITなどを利用して広い社会が必要
地域	こども一人一人が自分のやりたいことを見つけ、探究していける
地域	プリキュアなどのコンテンツからも勉強できる
地域	少子化になるのに多様なニーズにこたえるには町内だけではムリ。
地域	赤ちゃんを真ん中にした生きた学び
地域	地域のひとがもっている技能を活用する（竹細工・わら細工など）
小学校	→限度は？揉め事の対応は？
小学校	ICTについて学べる場
小学校	MiiMoなどの使い方大丈夫？
小学校	グラブの居場所good！
小学校	せまい、うるさい、自由がない
小学校	ミーモクラブをより充実させる
小学校	もっと活用していきたい
小学校	各自下校にして居残りが簡単にさせられればケアできる範囲が増えると思う
小学校	学校だけ先生だけ授業の中だけなどは難しいので、みんなで考える必要がある
小学校	学校以外での学びの場

小学校	学童との違いを理解できる？
小学校	学童のあり方どうにかならない？
小学校	環境は充実している（メタセコイア/glove/SC/健康子ども課）
小学校	居場所づくり
小学校	居場所見つけ
小学校	授業の中でも多様な場
小学校	人数制限？
小学校	多様な学びの場
小学校	町が用意している場はどの先生も活用できるように整理/周知があれば良いのに。
小学校	文化ホールを利用したらどうですか
小学校	放課後の学び舎がほしい
小学校	放課後の子どもたちの居場所づくり（トラブル増？地域の理解必要）
小学校	放課後集まる場所が学校かMiiMo
小学校	放課後集まる場所もある（MiiMo)
中学校	学ぶことができる場所
中学校	学習指導要領の保護者への周知

中学校	金
中学校	自分に合った方法を見つける
中学校	人
中学校	幅を広げつつバランスをとる
中学校	勉強のやり方、方法はたくさんある。
中学校	放課後の時間の使い方工夫
地域	「学びたい」をどうやって駆動させる？
地域	それぞれのペースで学ぶことが許される環境にしたい
地域	先生、親以外の地域の大人との安心できるコミュニケーションの場をつくりたい！
地域	大きい図書館がほしい
地域	SOSを出せる力を育てる（受け入れてくれる場所を知る）
地域	細分化するには多くの手（先生たちの数）が必要になるのでは？
地域	積極的に家庭に介入できたら良いのに
議員	「一人も取り残さない」という時のゴール（どこに）取り残さないと考えているのかは大事！
議員	みらプロの成功に期待する
議員	学校・家以外にも心が休める場所がある

議員	子どもがはじめて社会を学ぶ場が学校である。大人や仕組みで実現するのではない。
議員	少人数
議員	少人数の学級
議員	先生がたくさんいるのが必要
議員	不登校の子どもも減らせるか？
地域	「一人も取り残さない」
地域	AI活用
地域	その子どもに応じた学習ができる学校
地域	一人ひとりにとって居心地のよい空間や場所がいっぱい欲しい！
地域	一人ひとりの良さに気づく機会を増やす
地域	学校で勉強以上のことができる子どもの力をどんどん伸ばせるような体制
地域	学力の違う生徒が同じ教室同じ先生のもとで学ぶことことは違う気がする
地域	居場所づくり
地域	子どもたちの学ぶ力や興味に応じた授業
地域	職場体験で子どもたちが行きたいところへ
地域	「保障」って言葉でいい？

地域	いろんな地域と連携した場づくり
地域	一人一人にあわせるのは本当に実現できるのか？「一人も取り残さない」ってたくさんのマンパワーが必要なはず。
地域	一人一人への温かい眼差し。
地域	共働き、核家族のコミュニティセンターのような、こどもが安心して集える居場所をつくることが大事。
地域	教育を受けさせる権利
地域	教室以外で学びの場を増やす
地域	自分で考える体験・時間があってほしい。
地域	大学が試験会場になるように
地域	仲間からはずさない
地域	同じ場所で大人の学び直しはできますか？
地域	必ずしも集団でいることを強いない
地域	子どもの居場所・大人の協力・見守り
地域	大人も居場所は欲しい
地域	哲学と芸術
保護者	「学べる」という場のデザインが大切
保護者	「寛容さ」を身につけるためには

保護者	AIを使った学びが必要（正しく使えるように教える）
保護者	いじめ虐待がいかに悪いことかを共有しながら導くことができるか？
保護者	一人ひとりのコミュニティが狭くならないように外からの働きかけ
保護者	学校＝居場所となるようにする
保護者	学校だけでなく町全体が学びの場
保護者	学校に行くことが難しい子に対する対応、親に対しての支援が心配
保護者	学校は子どもたちだけの場所にならないおとなも楽しくいきたくなる場所
保護者	学校内に子どもたちが集える場（現在ある学童やGLOVE）をつくってほしい
保護者	子どもの意見の尊重
保護者	自分が学びたいことを学べる場所をつくる
保護者	多様を入れつつコンセプト「学校を町に」とか「図書館の中に学校」みたいなイメージを共有していくことも大切
保護者	大きな課題として一人も取り残さないとは？どこまでの範囲での捉えなのか...
保護者	勉強＝学校という考えをなくす

教育大綱の基本方針３：誰もが豊かに学びあえるまちづくりの推進

地域	スクールバス
地域	そばで見守る大人が危険を知らせる
地域	つらいことやしんどいことを話せるところ
地域	環境が必要
地域	広場・公園など使える場所を
地域	自分の得意なことや知っていることでつながれる場がある
地域	小さい町だが細長すぎる
地域	親や先生以外の、
地域	大人も子供も信じ合う
地域	端と端の子が遊ぶのに自転車でも大変
地域	病院にかかりやすい環境が必要
小学校	関わる大人が多いので掬い上げやすいのでは
小学校	共通認識を持っておく
小学校	教育委員会、あざさ苑の方が子どもたちに何かあればすぐ動いてくれる
小学校	教室と授業以外で関わる機会
小学校	誰もとりこぼさないために気持ちを理解する

小学校	地域の子への理解（大人が）
小学校	物理的な安心安全もあるが、SNS等の積極的な安心も必要
小学校	幼稚園・式中の取り組みを知らない先生方も多いのでは？（連携係だが、それでもはっきりと知らない）
中学校	SSW常勤化
中学校	いつでも相談できる場所（人）
中学校	教育相談
中学校	警察、弁護士など法の専門家を学校に常駐
中学校	困っていることにすぐ対応できるように
地域	（大声で怒鳴ったり、物に当たったり、攻撃的な発言をして威圧しない）
地域	いじめや虐待が、それだけでなくなるのか？
地域	違う考えの人の話を丁寧に聞くことを大切にする。
地域	学校がもっと開放的になる（教室の区切りを少なくする？）
地域	子どもたちの安心て？子どもたちの安全って？
地域	子どもたちの居場所を見守る大人がいる環境づくりをしたい
地域	町ぐるみで子どもを育てる
地域	大人が互いに連携している姿を見て子どもが安心

地域	幼学校、学童、職員が交流できたらgood！
議員	（〇〇があるから、いるから）安心は信頼がベースにある
議員	ボランティア（町民）と学校の連携
議員	安全より安心が大事。
議員	公衆トイレをつくってもらいたい
議員	子ども自身で買い物ができる場所がほしい
議員	私学並みの先生の働き方
議員	自宅から学校までの道で歩道がないところがある。安心して帰れるような道にしてほしい
地域	スクールカウンセラーの常駐化
地域	学校と地域の関係の進化
地域	いつでも始められる、
地域	いつでも辞められる
地域	バス登校、登下校時の見守り
地域	まち全体で見守る。
地域	安全と安心は全く違う
地域	一番楽しい

地域	運動器健診
地域	運動能力向上
地域	家庭の中での教育（あいさつ、笑顔の大切さ）
地域	帰り道（下校時間）が
地域	根っからの悪人は少ない。危険だから禁止はだめ。
地域	世代を超えたつながり
地域	いじめはダメ
地域	家庭教育を充実させて欲しい
地域	交流は難しい・・
保護者	→したくない、できない人もいるから私がし続ける
保護者	スクールカウンセリングをもっといきやすくオープンな場に
保護者	その子の個性を早めに発見して伸びるように指導ができること
保護者	挨拶大事！近所でさえ挨拶がない！
保護者	違いを認め合う文化
保護者	子どもたちが安心安全なら地域社会も安心安全になると感じました
保護者	小さい町だからこそ子どもの安全を見守れると思う

保護者	地域や周りの大人がつくる身の安全、心の安全

教育大綱の基本方針４：子どもたちの安心安全の推進

地域	学ぶことは楽しいという経験を学ぶ
地域	取り残された老人をほったらかしにしない
地域	大人にも学びの場を（勉強会・サークル）
小学校	「この人すごいで」推薦。
小学校	「子どものこと→学校へ」とならないように
小学校	ポイントGET→三宅で使えるクーポン
小学校	いろんなイベントがあって地域交流が多いイメージ
小学校	家庭と学校の結びつき
小学校	家庭の教育力
小学校	各地区の公民館等を活用した交流の場
小学校	学校の役割を明確に
小学校	共に学び合うとは？
小学校	子どもと保護者が参加できる活動ワークショップ
小学校	社会の仕組みを知る
小学校	需要を町から吸い取ってプロが入って家庭参加型のものを実施するとか？
小学校	集まろうと言う意識が出やすくなるような内容

小学校	人を知る
小学校	推薦されたら学び場をつくる。
小学校	性別/能力/考え方は子も大人も人それぞれ
小学校	大人が学んでいる場が見えるように
小学校	地域のクラブを異年齢（幅広い年代）で行ってほしい。ゲートボール/テニスなど
小学校	地域の方々の理解
小学校	同世代（親）は余裕のない人が多い。
小学校	連携できる？放任主義、母子父子家庭
中学校	（地域ぐるみ）
中学校	いろんな大人が協働している学校
中学校	カルチャースクールスポーツの教室などを大人と子ども一緒にする
中学校	外向きの派手な取り組みより目の前の地道な取り組み
中学校	地域に世話をかける
中学校	地域の方から教わることばかりでなく、逆に地域の方に子どもが教える？
中学校	幼少中一緒に取り組める運動会
地域	オープンスクールDAY

地域	学び合うって？
地域	学校を子どもだけでなく町に￥のあ
地域	机をなくす
地域	大人が楽しんでいる姿を見せる
地域	面白い大人からのお話会（大人も参加できる）
地域	連携を深めるって？どんなイメージ？
地域	ポジティブ！を合言葉に
地域	まちづくりに必要な視点
地域	学ぶのは子どもだけではない
地域	学校内に自治会、地域サークルの拠点を
地域	子どもが大人の考えに意見を言い、大人が子どもの考えに対して意見を言う
地域	大人はかなり”学び”に対して貪欲。
地域	大人は子どもたちの意見を受け入れる姿勢をもつ
地域	大人も学び合えるってどんな形だろう
議員	スポーツを通して学べる機会を増やす
議員	まちの人が学校で自分を語る

議員	開かれた学校
議員	教員が生き生きしている学校
議員	県との連携
議員	小学校を卒業しても行きたくなる学校（みんなが6年で学ぶと言うわけではない）
議員	多様な人々、子どもから老人、男も女も、外国の人も集まる場所であってほしい
地域	２階のない学校
地域	コミュニティスクールに関わる人を増やして運営を活性化する
地域	学校が地域を作る力がある
地域	子どもが中心
地域	子どもたちもボランティアに参加！！
地域	色んなロールモデルを見つけることができる
地域	地域連携
地域	道徳の時間が大切
地域	年齢に関わらず人とのコミュニケーションを取ることが学びにつながるので、互いに関心を持つことが大切
地域	家庭に介入できるの？
地域	具体てきにどのような場？

地域	誰が教えるの？
地域	（たとえば、家に本がある？）
地域	みんなが先生になれる。
地域	みんなで見守る町に
地域	関心のある人づくり
地域	考えや思いを発表、伝えることができる
地域	小中学校が地域の中心になるような取り組み。
地域	世代間交流の大切さ
地域	他の価値観の発見
地域	大人がすべて正しい、知っているというわけではないので、学びあえる町を
地域	地域との連携、
地域	地域全体が学びの場に
地域	地大人が学ぶ場を
地域	町のなかにどんな人がいるのかを知る
地域	町民会議を学校でやるなど
地域	学びを得ようとする気持ちをいかに育めるか？

地域	学校見学したい
地域	個別最適化
地域	高等教育を大人にも！
地域	子どもが先生になる大人の学校
地域	他の子どもにビビらず、関われるようになるには？
地域	大人は何を学びたいと思っているんだろう？
保護者	「どうするか」以外にない今がスタート
保護者	「家庭学習」を充実させる
保護者	お互いを知る対話が重要
保護者	学びを実現する環境づくりも大切
保護者	子どもも親も家庭もせめてほしくない！
保護者	自治会に入っている人、入っていない人で揉めるのをどうにかしたい
保護者	大人が楽しく学び続けるにはどうしたらいいか
保護者	大人が気合をいれる
保護者	大人も受け入れてほしい
保護者	誰が悪い、誰の責任が、は答えのある教育の副産物

保護者	誰もが気軽に学校を訪れるようにするにはどうすればよいか

⑦三宅町で実現したい学校・まちの未来像（62名）

作品タイトル	作品の説明	未来の子どものために、 どんな学校・まちを望む？
働きたい学校「三宅小の先生→三宅町の先生へ」	先生方の働き方は全国的に大きな問題です。 先生方が楽しく働かなければ、子どもが楽しいはずがない。 そのために「地域の教育力の向上」が大きな鍵。 定時なったら先生方もプライベートを大切にできるように、放課後の子どもたちの見守りは地域で責任を！	「三宅小の先生」であると同時に「三宅町の先生」になってほしい。
毎年、景色が変わっていく校舎	学校内、校庭に毎年卒業制作がしっかり大きく残っていきます。 毎年、景色が変わっていく学校に帰ってきたくなる人もいるはず？	先輩や先人への敬意と共に、未来の後輩との繋がりを感じられる場所。 人がここで、自分らしく学んできたことが実感できて、自分もそう思える場所に！
いつでもどこでも	学校の枠を飛び出して、田んぼや太子道にいろんな居場所、学びの場が点在するまちを作りました。	スモールタウンの良さを活かしていつでもどこでも人同士が関わって学び合える学校、まちがいいなと思います。
つながって、 まわり出す	今まで、混ざらない、 混じらない人、モノ、生き物が繋がって「ともに」育ち、生きて… 別々のものが繋がることでまわり出す、そして、みんな笑顔になる。	関係する人々が増える。 互いに補完しあう。 教育におけるエコシステムを構築する。
安心できる学校	一人一人が一つの方向を向くのではなく、自分の居場所をひとりひとりが見つける、多中心な場所で、且つまわりの人ともゆるやかに関係しているような場所が良いと思いました。	まちに子どもたち一人一人の居場所があるまちが魅力的なまちだと思います。

ごちゃまぜな、みんなでつくる学校、三宅のまちづくり	いろいろな色が混ざり合って新しい色がつくられるように、学校や地域の中でいろんな思いや考え、見方、感じ方ふぁ混ざり合って新しい発見をみんなでつくるイメージ。	自分らしさを見つけ、良しと思え、人のことも同じように認め合うことに価値を感じる人が溢れる場所。
circle	ぐるっと全てがつながるイメージ。 表も裏も、上も下も、右も左も、つながっている。 大学のサークル的意味も。	大人も子どももお互いがやっていることを面白がる関係でいたい。 それらにお互いのり合いたい。
多様性、つながり、余白のあるまち・学校	テープは人であり、考え方。 円は理想のまちや学校。 様々な人がいる中で、それぞれの人が支えながら補強しながら一緒にひとつのまち、学校を作り上げることを表現しました。 一人一人は個性や方向性が異なっても、それぞれが協力、認め合えるようになればと思います。	多様性を許容できる学校、まちになればと思います。
多世代の学校、居場所のある	学校が社会そのもの。 大人も子どももいる。 社会の縮図がそこにある。 中央に食卓がある。 それを囲むように、多様な空間がある。（学びの場、仕事の場、趣味の場...）	子どもは学校で社会を知る。 多くの大人と出会う。 自分の居場所を見つける。
話さなくても私たちは一緒に居る	子どもを含めた、多世代が話さなくても（個人的な重要ポイント）、「一緒に居る」「つながりを感じる」まちが良い。 その中心に町民のスポーツを応援するスタジアムやアリーナ、そこに文化施設があってほしい。 ゆるくつながるための仕掛けがたくさん欲しい。	左記と同じ。
みんな仲良し	青空の下、テーブルを囲んで色々な世代の人たちがくつろぎ、横の方でバーベキュー等（焼き芋）しながら楽しみたい。	いつでも気軽に町民が学校に集まれる居場所づくりをしたい。

結びの学舎（まなびや）	ひとりひとりの居場所を大切にしながら、ゆるくしなやかに繋がり合える学校、まちになってほしい。	”大人も子どもも安心して居られる”
たしかにつながっている町	個人個人、バラバラ、自由。 それぞれというコンセプトではあるが、実はどこかでつながっている。	人とのつながり ひとりではないと感じられる町
すしの学校	くら寿司 さーもん ひよこを育てる	みんなで食べる
共創装置「学校はボクらの生態系の中心となる」	解体可能な成長する学校、閉じない同心円構造を基本とする。 学校部は中心にあり、中心コモンズゾーン、地球共創ゾーン、そして外周には、自然、実験フィールドにつながる。 モバイル構造、動き出す教室（トレーラー教室）	朝、外周にある農園ではシニアの方が畑仕事をしている。 その隣では小学2年生がPF測定をしている。 午後は企業エンジニアによるロボットワークショップ、夜は市民学校、灯はいつまでもともっている。
色んな世界から積み上げていくまちへ	色んな世界（物理的なもの以外も）から、少しずつ積み上がって、完璧にキレイな形じゃなくこれからもどんどん変わり続けながら作りあがっていく町のようすを表現しました。	こんな色んな正解を知ってほしい。
地域とつながって...	・学校を中心とした地域の輪 ・地域とつながりながら世界へはばたく！ ・帰ってくるところは育った地域！ ・心にあるのは三宅町！	三宅町からどんな世界へも飛び立てる。 でも、いつも心には三宅町♡ いつでもつながっているよ。

集まったり、離れたり	カードから「発見のある」の言葉を選びました。 そこから色んな自分以外の人（先生や同級生など）の様子を感じられるような建物の形は円形が良いように思いました。（周りの小さい建物では独りになることもできる）	色々な人々と出会い、それを受け入れられる懐の深い学校、まちが誰にとっても住み良い場所となるのではと思います。
城下町	図書館（青いねんど）にカフェや運動スペースを隣接させた。 このカフェや図書館には大人が集まる。 子どもと大人が当たり前に触れ合う空中。 城が好きなので本校舎は城っぽくしてみました。	子どもが将来の夢ややりたいことを見つけるには、色んな大人に会う機会があることが大事という意見に共感しました。
循環する学校	「循環する」：行き交うをキーワードに先輩・後輩が行き交う、先生と子どもたちが行き交う、住民の方と子どもたちが行き交う、他市町村の子どもたち・人たちが行き交う、（インターネット等を利用して）世界・他国の人たちと行き交うをイメージして造りました。 色々な色で表現したかったのは人々の多様性です。	いろんな人が！いろんな国に！いろんな出会いが！ 未来の子どもたちに自然な型で機会を与えてくれるような学校がいいな。
地域が見守る安心した学校	学校が町の中心にあったり、どこからでも地域の人たちが未来の町を作っていく、子どもたちに安心できる場所だと伝えたいと思いこの形にしました。	緑豊かな、子どもたちが外で明るく遊べる場所、学べる居場所。
子どもの未来は地球の未来	緑豊かな地球で子どもたちが楽しく遊んでいます。 地球の廻りには、色々な素材、色、形のものが子どもたちを見守っています。 それは宇宙も含まれます。 色々な物たちは、色々な人間、価値観、人種を超えた動物たちも含まれる全てのものに囲まれて子どもたちは育ちます。	どの子も学びたい時に、いつからでも始められる、決めつけのない、受け入れてくれる学校、まち。 懐の大きなまち、学校♡

	社会と学校のつながり！ 現実遮断されていないか？ 社会↔学校間のアクセス	安全なまち、社会。 社会と繋がる学校。
つながる（つながれる）町 つながりたくない時はほっといてくれる	学校が地域とつながっている。子どもや大人が、なんかみたことのある人と思われている。地域にある公民館であったり（誰かの家でも良い）が教育になったりする。町内をゴルフカートみたいな電気自動車が走っていて、子ども1人で乗れる。 自動運転→給食をのせて運ぶこともある（無人）	みんながなんとなく顔見知り。
多世代＋交流	こどもから高齢者まで共有する。 子どもは子どもだけではなく、高齢者は高齢者だけではなく、みんなで合流、共有を考える作品。	自由な教室、場所、など机も自由。 大学みたいな学校作り 他者との共有時間大切
ひらかれた学校	校門がない。玄関がない。職員室がない。教室がない。校舎はどこか？ 子どもたちがそれぞれ考え動いているよ！！	皆んなの学校、皆んなの町に！！
未完成な学校 そのまま	・立方体の学校はないと思いましたが、紙コップを置きました。 ・橋みたいにもの？あればとの話題が出ましたのでモールでカップを繋げてみました。 ・緑はある方が良いのと、彩があまりに貧相だったので、紙粘土で貼り付けました。 ・スポンジのキューブは軽い色調でしたので、空いた場所に置いてみました。	学校は、世代に関係なく「学び」を核につどえる場であればよいかと思います。 子どもでも大人でも、関係ない
『何があるのかわからない！！』	ここはなんだろう、どんな部屋だろう… わあ、こんなものがあった！ここで学ぼう、ここで休憩を… 自分自身で居場所がつくれる	失敗をくじけず、その経験を次に活かす心が育つ。 あきらめない、自分の可能性を見つけ出そうとできる。 子どもを大人もみんな一緒！！

絡みあう笑顔の場所	誰かと誰かが出会って楽しいことや悲しいこと、おもしろいこと、考えることが始まる。 つながることは素晴らしいことだけど、つながらなくても心地良い、集まるみんなが先生や生徒、仲間になれる環境があるといいなという思いを込めました。	先生が「働きたい！」と思える学校になってほしい。 理想と現実が違いすぎると、子どももその先生の気持ちを感じ取ってのびのびできないと思うからです。 先生と子どもの笑顔があふれる、居心地の良い学校になることを望みます。
開かれた学校	学校は、それ単体で完結せず、地域に開かれたものであってほしい（平面的に開いているだけでなく、時間的にも（車種などが稼働遊びに来れるような）開かれたものであってほしい）	環境整備も読み聞かせのボランティア、授業のサポートなどで町民がかかわれる様子もあれば良い。
未完成な学校	建物は骨組だけ、なんか良くわからない装置がある。 コンセプトとして「いかにオカネをかけず、未来の学びの場を作るか」を考えて、今回にのぞみました。そのために建物や設備、環境をあえて作り込まず、中途半端な感じに作る。 例えば、「この場所はみんなが集中できるように作ろうとした場所です」とその後、その場をどう完成させるかはそれぞれが考える。 それぞれが手を加える、加えられる。	できれば多くの住民さんがかかわれる学校、立ちよれる学校
ジェットコースター	小さい子どもでも遊べる遊具、大きい子も遊べる。 勉強はどんな乗り物に乗ったかを言う。	たのしいゆうえんち、食べるところもある。
つながる学校	子どもも大人も交流があって、つながりをもてる学校。 学習したり、遊んだりできる。 うまく表現できなかったけど、場合によってスペースがかえられる。	安心・安全を確保しつつも、広く交流がもてる学校。

境目のない町の学校	教育とは、連続性のある育みの中で培われていくものであろうろいう視点から、幼・小・中の一貫した壁のない校舎をイメージしました。 中央には広場があり、レッジョ・エミリアのような町の人々と共に集まりの場もあるものです。 わくわく楽しい気持ちになるというイメージで作ってみました。	三宅町の小さい町を最大限に活かした町全体で、子育て、親育て、地域の力を育むまちへ。 教育にも、立場にも、所属にも壁のないまち。
陽だまりの学校	光がたくさんさし込み、出入口が大きく、外なのか？中なのか？外と中がつながっている感じ。 ☆マークは天体望遠鏡があり、明かりの少ない三宅町で星空観測もできる。	様々な人が集まり、交わり合える学校。
森と水流の学校	メインホールでは図書、音楽、舞台として交流の場に。 ホール上のカラフルなタワーは三宅町のシンボルになるような派手さを！ 校庭にはビオトープの大きな池と小川があり、橋を渡ってコテージ風の教室に移動します。 身近に自然に触れることができる学校に。	風も、光も、音も、人も、様々なものが豊かに行き交い、ゆる～く、おだやかにつながり合う。 そんな暖かな学校にして欲しい！
子どもの避難場所	見た目が奇想天外です。 学校内にある（摩訶不思議）な空間です。 この空間なら行ってもいいかな～と思えるような… お部屋が（円筒所がある）真ん中に高い棒的な物が数箇所設置されています。 そこから滝が流れている（癒しの場）。 外には露天風呂も設置。 一見ありえないような場（空間）を設けました。	SDGs＝地球共生社会を実現するためには、学校関係者だけでは成り立たない。 町の人達全員が、皆で子供を育てるつもりで生きていかなければいけないと思う。 作品（逃げ場所）に居る大人は町の人。
開かれた学校	環境整備やよみきかせなどのボランティア、授業のサポートなどで町民がかかわれる様子も表わしました。	学校は、それ単体で完結せず、地域に開かれたものであってほしい。 平面的に開かれているだけでなく、時間的にも（卒業生が気軽に遊びに来れるような）開かれたものであってほしい。

つくることで学ぶ工房	自分の作りたいものを自由に作ることができる場所。 作るもの（作品）のカテゴリーは決まっていない。 テクノロジー、アート、必ずしもすごいものを作らなくてもいい、「作ってみた」を実践する、できるところ・	生成AIの発達もあって、自分の思うもの、イメージするものを具体化しやすくなった。 それをさらに実体化できるような環境、作品を共有することで自分の考えを発信、共有できるところ。
かがやく三宅小学校	学校内では子ども達が各々にチャレンジし発見している。そのエネルギーが学校の外へと放射状に放たれている。 一方で、開かれた学校には気軽に人々が 集まってくる。	子どものチャレンジや発見を応援できるような学校、地域風土を望む。
個人と協動が大切にされる学校、まち	人はそれぞれ考えや価値観、強み、弱みが同じではないです。 皆が自分の思いを大切にして、他者の思いを大切にしていける。 他者に発信して、他者の発信を妨げない社会。 一方で、他者で協同して、1人では出来ない大きな力となって活動していける社会。 その2つの社会を表しています。	みんなが個性を平等に発揮、それぞれの正解を形づくって表現していく練習ができる学校。 そのようなみんなが協同して一人で出来ないことも表現していけるまちを望みます。
ごちゃまぜな働きたい学校	今の小学校の場所はもちろん、隣りの幼稚園、あざさ苑、文化ホール、役場、MiiMo、商工会のある一帯を学校の区域とした、「ごちゃまぜな学校」とする。 いろんな場で、いろんな人がいろんなことを学ぶ。	
ビッグバーン	三宅小、三宅町の中で 深まって、凝縮してビッグバーンで宇宙に飛び出す。	好きなことを見つけて、 必死に学べる学校。 それをおもしろかって、喜んでいるまち。
つながる安心できる学校・まち	幼、小、ひまわりの家・あごさ苑、相談支援がつながって・・・。 小5の男の子が大好きな化石の発見を発表している。	・失敗をおそれない ・すきなことを大切にできる ・受け入れられる環境 ・お互いを認め合える

	みんなが彼を受け入れて拍手と紙ふぶきがまう‥‥。 興味・関心を大切に、そして受け入れられる安心安全の場!!	
動く学校	地域へ学校そのものがが出てゆける。 未知の領域へ、未来へ、知らない世界へGo!!	進む（大人もアップデートできる) いろんな所を実際に見る。 情報はいくらでも得られるので実体験を重要視する。
ごちゃまぜが学びにつながる学校	多世代・多国籍・多様な性別を、色々な素材と色で表しました。 万博大屋根リングの理念多様でありなから 一つを意識しました。	多様性を受け入れることで、学びあえる学校・まち。 様々な価値観から、思いもよらない考え方を知り、新しいアイデアにつながるような学びができればいいと思いました。
ひらかれた交	住民みんなで子どもたちの成長を見守れる環境。 子どもたちだけでなく住民が過ごせる憩いの場。	子どもや大人、高齢者がみんなでひとつの町づくり
試される学校	どんな人でも来やすいようなひらかれた学校をイメージしてつくりました。 (しょうゆの魚のヤツをどうしても使いたかったので、 釣り場も追加しました。) 水と大地がある景色って、いいですよネ。	たくさんの人生（人、もの、本、作品）に触れられる学校・まち。
つながる学校	施設を中心に、いろいろな 子ども・住人さん、先生たちが つながり学び合うイメージでつくりました。	0歳〜18歳の子どもたち、大人、すべてのまちのひとがつながり合える場所をつくりたいです。

夢とキボウ	子どもの頃の夢や希望を大事にしてほしい	夢を持ち、したい事にチャレンジできる学校。
夢の循環	夢が散らばり、 循環する学校 学校や制度も創造もり返す。再生。	夢中になれる学校 自分の夢を追いかけつづけられるまち。
ロボット学校	チャイムがなる ロボットが動く 生徒が学校を動かす	
学びが交錯する学校・まち	自然がいっぱい、学校は透明、学びの点と点がつながる交わるイメージを表現した。	・教師だけでなく、子ども、保護者、地域、色々な分野の専門家など、みんなでつくる。 そこに集まる人で、あり方、形が変化する。 ・自分の学びたいことをみつけられる。 みつけたことをとことん深めていける。 どの年齢の人でも。そんな環境や人とのつながりがある。
「自由」が作る「未完成」の完成	使用している色は白色のものだけ、 それは、「白」であることによって、そこに自分で色を足していくことによって完成する。 自分で色をたすという「自由」の 意口がある。 人がもっている最後の1ピース、 それは塔の1番上におくことによって未完成が完成することを表している。	自由な考えをもち、それを様々な形で表現 できるまち・学校、

ホッとできる居場所	ホッとできる居場所は人それぞれ、一人で居られる場所安心できる場所、おいしい飲み物でホッとできる。 縁のある場所でホッとできる人、楽しく遊所で息ぬきできる人、それぞれのホッとできる居場所。	孤立しがちな子ども達のため、居場所がある安心してホッとできる学校を望みます。 人にとって安心できる場所はそれぞれなので色んな安心できるホッとできる居場所かあめれば良いなと思います。
境目のない学校	学校の敷地は決まっています。 教室はありません。 小さな研究室はあります。 緑に囲まれて、ヤギがいます。 屋外教室もOKです。	子どもが楽しく学べる学校。 休みたい時は、集団から離れていられる環境がほしい。 個室の研究スペースもほしい。
先生も子ども達も保護者も地域の方もHappyになることができる学校	四季の花々に囲まれ、みんなが幸せな 気持ちで学ぶことができる場所。 オープンスペースもあれば、個別にクールダウンできる場所もある。	自分はここに存在していいんだ、認めてもらえるんだ、と誰もが思えるようなまちになってほしい。
超点がつながる未来の学校・まち	この学校は、一人ひとりの強みを見つけて、 深く伸ばせる学校です。 同じことをみんなで同じように学成のではなく、それぞれが得意 なことを探究します。 AIやデジタルを使って、自分に合った学び方を選べます。 地域の人や高齢者、海外の学校ともつながり、社会と関わりながら学びます。 教室は壁が少なく、自然やまちとつながっています。 この学校では「自分らしさ」を大切にします。 みんな違って、みんないい。	子どもが安心して挑戦できる学校とまちを望みます。 失敗しても責められず「やってみたい」が応援される環境です。 学校とまちがつながり、 子ども・大人・高齢者が支え合える社会、それぞれの強みが活かされ、孤立しないまちを作りたいです。
子どもも、先生も、地域の人も。 三宅町で一番行きたい場所	まちのシンボル 学びが日常 おまつりの遊園地の学校	子どもも、送りだす親も、地域に住む人も、先生も。 誰もが安心してすごせる学校・まち。 ここは間違っていい場所、ここは質問していい場所、ここは自分のペースで挑戦していい場所、一人じゃない場所（安心）

		→小さな成功体験が自信につながる(自己肯定感) →みんなが自分を好きでいられる自分らしくいられる場（自分が好き） →もっと知りたい
屋上から大声トーク	学校へ行こう!!をイメージしました。	
みんなとあそぶ	学校の外でごはんが食べれる。みんなが平和に暮らせるように。	遊具が楽しくなりますように。
みんなあつまれ!	子どもたちの学びはもちろん、ご年配の方のがひなたぼっこしたり、お仕事休みの大人が来たり、(池のコイにえさあげたり･･･) 子育て世代が来たり・・・隣り町のともだちが来たり・・・とにかくみんながあつまれる場所！	みんなあつまってほしい が・・・・セキュリティーはしてほしい(笑) あいさつをするまち！
ケーキとパンとぼく	「パン、ケーキが食べ放題だったら行きたくなる学校になる!!!」	想像がカタチになるまち。
未来の小学校	森あり、動物あり、自然たくさん。 遊び場（遊具）もたくさん。 バイキング(食堂)がありいつでも食べれる!	毎日、実習のある学校。畑、森、虫、動物、自然がいっぱい。そこから生活を通じて学べる学校。様々な世代、業種の人々が集まる。

自分たちで作る学校	学校の生徒や地域の人が自由に集まり、遊んだり、ゆっくりしたりできるようにする校庭を作った。 校庭では誰が何をしても良いから遊具がなくシンプルになっている。 作りをシンプルにしたので好きなように作ることができる。	地域の人との関わりを増やし、誰にでも相談できて、 誰とでもつながることができる学校・まちを望む。

⑧第3回ワークショップ（教育フォーラム）参加者の感想（52名）

森先生の話がとても参考になりました。 また、最後の皆さんの話し合いの報告も参考になりました。
子どもの視点を中心に検討していけるかが大切だと感じた。大人だけでなく、子どもも関わりながら検討していける仕組みづくりを期待しています。
まちづくりと学校づくりをリンクさせる事の大切さ、継続していく必要を感じました。同時に自分の視点にはない部分の気づきと、大切なものをどう広げていくか、実践していくかを悩みつつ進めていきたいと思います。
子どもも大人もみんなごちゃまぜで対話することの大切さを感じました。
様々な考えの方と、話をすることで、考えが広がると感じました。 トップダウンではなく、広く意見を聞いて進めていく学校づくりに可能性を感じています。
三宅町の未来を考えるエネルギーを感じました。中高生が参加していて、参加そのものがすごいな！素晴らしいな！と思いました。小学校から大学生など、当事者の世代の参加のしかけをどうすればいいかな、と感じました。もう、されてるかと思いますが、生徒会、児童会、での対話？、大学生など若者のイベント？広げて、つなげていきたいです。ありがとうございました。
三宅町の子供の幸せを．こんなにもたくさんの人が当事者意識を持って関わっている姿に、感動しました。子供を思う人が、たくさんあればあるほど、力は強く、実現できるので、私もその1人になりたいと思います。保健室の子供の悲しみが、きっとなくなるだろうと思います。子供の，幸せが、三宅町みなさんの幸せに繋がると実感しました。ありがとうございました。
未来の学校を，考える事はまさに将来の町づくりを考える事だて実感しました。子供発進が出来る環境、場所ね必要性改めて 考え時間を持つ事が出来ました。
まだ分からないけれど、大切なことに触れたということは分かります。「知ろうとする姿勢」は本当に大切です。”知る”と”愛”が生まれると、身をもって感じました。三宅町はおもしろい町です。着実に進んでいきましょう。
学校の先生とも話す機会を得れて、少し相互の認識のズレ・溝が少なくなった。考えたこともない視点を得れた。
少し関心を持てるようになった
考えることは一緒の方向に向いているが、各年度の方針を毎年一つだけ掲げてみては？
若い子が参加されなかったのが残念

こどもの場所について考えるのでこどもを抜きに考えてはいけない。 学校のイメージを1回壊さないといけない。壊した方がいいと感じました。 いろんな立場、世代の人たちで話せた今日の時間はとても有意義でした。ありがとうございました。
これからの地域づくりや教育のカタチについて！
「教育がどうあるべきか」をそもそもで考え合うことは重要。 しかし、それを政策にする段階では教育以外のことも調査、研究、議論が必要。
用事のため、短い時間だけお話を伺いました。参加者同士で意見を交換する場所は良かったです。目も耳も良くないので、十分にお伺いすることはできませんでした。参加者の三宅町民の前向きな熱意が伝わりました。
このような場(ワークショップのあるフォーラム)があることで、関心のある人が集まり、もしくは自治会等の役員さんだったりも含めて、日ごろ話すことのない人と話をする事は、地域のつながりを作り、強固なものになっていく。これは未来の学校というか、どんな街にしたいかにつながっていくのだなと感じた。
様々な年代の方とこのような場があり、対話することの機会があり、貴重な時間でした。教員としてフラットであることや学び続けることを感じました。森先生と言う素敵な方の話を聞くことができ、大変勉強になりました。
最後にお聞きした子供がいてこその話し合いをしたらいいなと思いました。子供たちがどんなことを学びたいのか、やってみたいのかしっかり一緒に話し合ってより良いまちづくりになるのでは？と思いました。
子供を中心に考えることが大切。
またまた知識が少なすぎる。多くの場に出向き勉強したい。
子供たちの安心安全をどう推進していくか。
自分の想像力次第で、できる事は数限りなくあるのだと感じました。すべての人にとって居心地の良い学校、地域づくりが何よりも大切だと思います。
素直に言って、教育関係以外の地域の方々がたくさんおられたのに驚いた。やはりいろいろな思いを持って「誰かのために」と思っていらっしゃる人の多さを感じた。
ワークショップ4人のグループの皆さん感じ方が深いなぁと思いました。みんなそれぞれが大切なことを抱えてこの場に来てくれている。
この場にこれだけ多くの方々が集まっていることに、三宅町のパワー、魅力を感じました。子どもを真ん中に置くこと。これがまちづくり(=学校づくり)において極めて重要だと、本日の場を通して改めて重要だと学びました。何かしらお役に立ちたいと思っています！
町民の学校、教育への関心が高まっていることが感じられ、胸の熱くなる思いです。町民が耕した豊かな土地に子供たちの芽がすくすく伸びていく未来を作っていきたいです。

対話の大切さ。その場をどのように作っていくのか？どう認め合っていくのか？どう継続していくのか？ いろんな方の視点に触れることができてとても楽しかったです。参加できてよかったです。ありがとうございました。
現役世代の保護者を今後どう巻き込んでいくか。
地域と子どもの関わりを多くするためには、学校生活で地域の方々と関わるだけでなく、防災等のテーマで普段から関わることがつながりを多くするために必要だと感じた。
三郷町も小学校の建て替えをするのですが、このように町民の意見を取り入れる機会がないまま進めてしまっている状況で。素晴らしい取り組みだと参加させていただきました。三郷町では中学校1校、小学校2校だったので、小中一貫校を選択しなかったらしいのですが、8年経った今、なぜやらなかったのかと思います。川西町と中学校を共有されていることを初めて知ったのですが、選択肢の1つとして考えてみることも大切だと思います。貴重な会に参加させていただきまして、ありがとうございました！
子供の幸せを最優先に。三宅町が暖かな町になりますように
人の幸せを踏まえて、学校を核としたまちづくり。これを地元でも広げていきたいと思いました。
高齢の方々はこどもたちのきとにあまり興味を持っていないと言うイメージがあったが、こどもたちのことを考えてくださる方々がたくさんいらっしゃることに希望を持てた。
人を幸せにする町(学校)とは、、 思ったほど人生は悪くないと思って欲しい
学校現場にいる教職員と、地域住民の対話の場を重ねて行けたらと感じた。(今日は教職員が少なかった…)
未来の学校を考えることはまさに将来の街を考えることだと痛感しました。こどもが発達できる場所の必要性をあたらめて感じました。
子供の教育は、老若男女みんなが人生を考えるためにと思いました。重要なテーマであり、本質的にみんな関わりを持ちたいと考えている。
学校と地域が一体で子どもを育てることの重要性を改めて感じました。住民との交流がクレームを感謝に変え、支えられたこどもたちが将来地域に貢献する力になる。この温かい循環こそが持続可能な社会の鍵となる。その発信を三宅からしていきたい。
今回のフォーラムは対話すること、同じように参加して、自分たちが考えていく場とした形が良かったです。今回の学び、発見が未来のまちづくりにぜひ反映させたいです。
歳も職業も違う人と交流できて楽しかったです。このような場がずっとあったらいいなと思います。
様々な思いを聞かせていただいて楽しかったです。少し三宅の未来も明るくなりそうでしょうか？
良い企画なのだよりよい方向に向けて継続してください。もっと中高生が参加していると思ったので少なくて残念でした。実際の学校づくりはどんなスケジュールが前提になっているのか教えてほしいです。

何らかの共通の思いを持った方との出会いがあって嬉しかったです。たくさんの学びをありがとうございました。
学校で行かせそうな内容をたくさん教えていただき、参考になりました。ありがとうございました。

⑨未来の学校づくりに向けて、今後学びたいテーマ（52名）

コミュニティスクールやそれ以外の関わり方についても相互理解が必要で、それには対話の量が必要になります。そのため、学校やまちづくりで対話の仕組みづくりをどうしていくかは考えていきたいと思います。
人の行動について、対話
安心安全なまちづくりとのつながりをほりさげて話し合いたいです。
子どもの主体性や居心地のよい居場所づくりについて
子供の訴えに、家庭の問題も多々あります。 保護者も余裕がないと思うので、保護者も学校で幸せになれる．希望が持てる、安心できるような学校づくり、学びたいです。
地域のコミニティについて
学校の先生、保護者、学校の生徒
テーマに即したこどもたちの声を聞きたいなあ。素敵なフォーラムをありがとうございます。お疲れさまでした。
①「歴史は繰り返す」という言葉があります。未来の学校は、過去の歴史の中に、現在の各国の教育の場をネットで調べることも大切かと考えます。 ②「松下村塾」や「適塾」はとても小さな家の中から、多くの塾生が輩出しましたが、未来の三宅町の学校を考える大ヒントになるような気がしました。 ③この２つの塾の先生（松蔭と洪庵）は日本中を歩き、外国を試行錯誤して作ること。みんなで行動することが大事だと思いました。
こうしたい、したい、から具体化するまでのプロセス。実践フロー。
「子供は先生」大人よりも柔軟に考え、素晴らしい発想があります。否定のない環境が子供たちのことをより育んでいくのでは？と思いました。今日は素晴らしい学びをありがとうございました。
子供たちに会話のできる子供であって欲しい。地域では子供会がなくなって、地域の人と話す機会がなくなっているようだ。学校がそのつながりの場所になれば。
町全体のコミュニティー、地域と学校の交流。
異年代の人たちと共通する話題を見つけていきたい。
誰でも学べる学校

持続可能な学校、まちづくり。人が変わっても教育の中身が変わらない取り組み。三宅小の先生が多様な視点で「教育」について考えられるような取り組み。
教育目線で申し上げると「子供の幸せのために教員も幸せ」と言う点と、子供の思いである「わかりやすい面白い授業を」と言う、にフォーカスを当てたいと思います。
教育の内容を明確化していくための学習
学校の枠を超えて、地域全体を学び場にすることに本気でチャレンジします。現在、設計中の建物もそこに挑戦中。そこでの経験知見を三宅町に返していきたいです。
未就学児(乳幼児)の教育にもっと力を入れたい。家庭教育をより充実させていきたい。
子どもが本当に楽しいと感じる事は？どんなことなのか？
コミュニティースクールの活動が促進されるような校舎、教育課程。
普段から地域の人と関わるためには、どのようなことをすればいいか、地域と学校の関わりを増やすために、自分はどうしていけばいいかを考えたい。
こども(人)を幸せにするまち(社会)から民主社会づくりへ
・不登校傾向のこどもと親のサポート(学習面・心理的サポート) ・娘(元不登校)は「学校に通えている子どもたちに姿を見られないようにできて、相談室や保健室、図書室などに入ることができる入り口が欲しかった」と言っていました。
人口減少を前提に、学校・まちづくりの話を考えたい
インクルーシブな学校、街「共に生きてる？」 子供が参加する。学校「自治と協働の学校とは？」
今回の会でコミニケーションをとれたことで自意識が変わる。有意義な集会が広まることが大切
生きること、防災はつながっていて、学校という枠を超えたフレームですね。
具体的にどんなことができるか、どうしていきたいか、子どもたちを交えて対話する時間が欲しい。宮北様が言われたような、良い地域にしていきたいです。
斜めのつながり
人口の過疎化から脱却方法も含んだものにしてほしい
建築、デザイン、色の視点で人が居たい場所を学びたいです。
子どもを真ん中に(ここ忘れずに)地域の人も保護者も先生もつながって、安心で生きる力を学んでいける学校づくりを考えていきたいと思います。ありがとうございました。